

令和 7 年度 事業報告

社会福祉法人みかり会

みかり会 経営理念・方針・目標

みかり会経営理念

自身の成長、そして、お返しを

みかり会経営方針

人と人との多様な関わりの中で
総合的人間力を培う

(1) 感知融合

(2) 多様な関わりの中での『体験』と『論理の展開』
(学習と成長の仕組みづくり)

地域の真の幸福をめざして
なくてはならない存在に

(3) 「人」にお返しを

(4) 「地域」にお返しを

(5) 「世の中」にお返しを

(6) 安全性を高める

(7) 信頼性を高める

みかり会経営目標

(1) 「論理の展開」を経験し、知性(認知能力)を高める

1. 専門知識・技術を高める

2. 創造力を培う

3. 論理的思考を培う

4. 継続性を培う

(4) 「人」にお返しを

20. 受容的環境の確立

21. 「自分らしく主体として生きること」を目指すサービスの提供

22. 「将来」へつなぐ保育・介護・障害福祉サービスの提供

(5) 「地域」にお返しを

23. 連携によるニーズの把握とスキルの獲得

24. 地域課題(ニーズ)への対応

25. 施設主義から機能主義へ

(2) 多様な関わりの中で

「成功」と「失敗」を体験し、感性(非認知能力)を培う

5. コミュニケーションスキルを培う

6. リーダーシップを培う

7. 公共心を培う

8. ルール・規範意識を高める

9. 他者理解力を高める

10. 忍耐力を培う

11. 意欲を高める

12. アイデンティティを築く

(6) 「世の中」にお返しを

26. 幼老障共生社会の再構築

27. 福祉教育の推進

(7) 安全性を高める

28. 予防(発生確率の低減)する

29. 被害規模(ダメージ)を小さく

30. クライシスマネジメント 30. 風評被害に備える

31. 人格権侵害をなくす(人権の尊重)

32. 個人情報保護

33. 経済的被害に備える

(3) 学習と成長の仕組みを構築し、
組織を活性化させる

13. 良質な人材を確保する

14. 上司、部下、スタッフ同士の関わり充実

15. 経営理念の明確化と周知

16. 経営戦略の策定と明確化

17. 仕組みの構築と組織の活性化を図る

18. ガバナンス(組織統治)の確立に努める

19. 財政基盤の安定

(8) 信頼性を高める

34. 職員・職員の家族との「信頼」の構築

35. こども・子ども・高齢者・障害者との「信任」の構築

36. 保護者との「信頼」の構築

37. 地域との「信認」の構築

38. 地域の学校との「信頼」の構築

39. 養成校・福祉を目指す学生との「信頼」の構築

40. 行政・関係機関との「信任」の構築

41. マスコミとの「信用」の構築

経営理念				経営方針		経営目標(長期ビジョン)		各会議体・委員会・担当者の役割業務										総務委員会・委員会・担当者	
多様な関わりの中で成長させていた	人	は	ひとりでは生きていくことはできません。また、ひとりでは成長することもできません。意識をしないと気がつかぬほど、日常的なことですが、自分のまわりにおられ	人	と	の	多様な関わりの中で、総合的人間力を培う	(1) 感知融合	開性(体験し、知性(認識し、力)を高めよう	■「論理の展開」を体験し、多様な関わりの中で「成功」と「失敗」を培おう	■知性を高めるための方法は、「論理の展開」です。教わるより、教える方が身につくのです。教わることは「学習」で、教えることは「勉強」だとも言われます。様々な立場を経験しながら、論理的思考を培い、技術を磨き、意欲を継続しながら新しいものを創造していこう	■感性とは価値あるものに気づく心の感受力であり、個性の原点です。それは、多様な関わりの中での体験によって培われます。様々な体験の中で、感受力を高め、コミュニケーションスキル、リーダーシップ、公共心、規範意識、他者理解力、忍耐力などを培い、自身の個性を確立していこう	1.専門知識・技術を高める	より良いサービスの提供を目的に、関係する質の高い知識と技術を培います	1 [人材の育成] 法人の経営理念に基づいた人材育成に関する目的の明確化と、「認める」「任せる」を基本にした研修体系の構築	研修委員会			
											2.創造力を培う		多様な経験と知識を得、思考、想像力を生かし新しいものをつくる力を培います	2 [育つ方向の明確化;キャリアパスシステムの改善] 「求められる職員像」の定期的な見直し					
											3.論理的思考を培う		情報収集力、問題発見力、分析力、理解力、観察力など、論理的思考を培います	3 [学ぶ内容の明確化] 研修課程(階層別研修メニュー・非正規職員含む)の定期的な見直し					
											4.継続性を培う		好奇心、探究心など、知識欲をもって、知識や能力を継続的に高めていきます	4 [個別研修システムの確立] スキル及び支援(虐待等も含む)の評価のためのチェックリストの作成と個別研修システムの構築及び面接制度、評価制度などの認める仕組みの改善					
											5.コミュニケーションスキルを培う		言語能力、表現力を高め、コミュニケーションスキルを培います	5 [非正規職員研修システムの構築] 研修体系の確立と採用時マニュアルの作成・改善					
											6.リーダーシップを培う		想像力、状況理解力、判断力を養い、柔軟性、協調性をもって対人影響力を高めます	6 [非正規職員研修の企画・運営] 非正規職員集合研修の企画・運営					
											7.公共心を培う		人間としての基礎・基本を土台とし、社会の一員として公共心を培います	7 [特別研修の企画・運営] 法人特別研修の企画・運営					
											8.ルール・規範意識を高める			8 [フィードバック研修の企画・実施] 人材定着・育成を目的として、成長していることに対してのフィードバックと、自信と喜びにつながる研修の企画・運営					
											9.他者理解力を高める			9 [パワーアップ研修の企画・運営] 後輩や部下の人材定着・育成を目的とした、先輩や上司の関わりについてのスキルを学ぶ研修の企画・運営					
											10.忍耐力を培う			10 [PDCAサイクルの実践] 数値化した計画管理を行い、PDCAサイクルを実践					
11.意欲を高める		11 [個別研修計画の作成] 部下との面談を交えた個別研修計画の作成と、自己評価のチェック	管理者																
12.アイデンティティを築く		12 [OJTの実践] OJTマニュアルの作成とOJTリーダー養成研修会の実施																	
		13 [非正規職員研修の実施] 採用時マニュアルに沿った研修の実施		非正規リーダー															
		14 [非正規職員の個別研修計画の作成] 部下との面談を交えた個別研修計画の作成と、自己評価のチェック																	
		15 [採用ツールの工夫と活用] 人材確保に向け、採用ツール(パンフレット、チラシ、動画、HP、プレゼンテーション用スライド等)の工夫と、効果的な広報媒体(ウェブサイト、求人広告、学校訪問等)の活用																	
		16 [効果的な情報発信] HPでの新しい効果的な情報の発信(随時、常時更新)																	
		17 [就職フェアへの取り組み] 効果的な「人材確保」を目的とした採用ツール等の工夫																	
		18 [リクルートツアの企画・運営] 効果的な「人材確保」を目的とし、当該年度のみならず、次年度以降の採用を踏まえた、採用ツール等の工夫																	
		19 [説明会の企画・運営] 効果的な「人材確保」を目的とした採用ツール等の工夫																	
		20 [法人のブランド力を高める] 効果的に情報発信をして「見える化・魅せる化」に努め、法人の組織、職員、教育・保育、介護、障害福祉サービス内容のブランド力を高める																	
		21 [健全な職場風土の確立] 人材定着を目的とした、クラブ活動やレクリエーション等の企画・運営	人財確保・定着委員会																
		22 [組織風土の理解を得る] 実習やリクルートツア、また、法人内研修への招致、連携・協働などの活動を通じて、学生や養成校の先生方へ組織風土の理解の促進																	
		23 [PDCAサイクルの実践] 数値化した計画管理と、PDCAサイクルの実践																	
		24 [経営理念の明確化] 経営理念と日常業務とのつながりの明確化と、経営理念の「見える化」の推進																	
		25 [経営理念の周知徹底] 経営理念の周知徹底を図るための仕組みづくりと、様々な機会を捉えた経営理念の発信(説明)																	
		26 [信条の周知・徹底] 経営理念に基づいた行動規範としての「信条」の明確化や周知・徹底																	
		27 [外部環境分析] 競合他社(企業、NPO、他の社福)に関する情報の収集・把握、制度に関する情報の収集・把握、行政との連携及び情報の把握等の外部環境分析の推進																	
		28 [内部環境分析] 第三者評価受審の計画等サービスの自己点検や自法人の強み弱みを知るための「内部環境分析」の推進																	
		29 [経営計画の策定] 評価・分析に基づいた経営計画(長期・中期・短期)の策定とその見直し																	
		30 [経営計画の明確化] 経営計画の周知徹底と組織全体での共有化の推進																	
		31 [PDCAサイクルの実践] 法人全体の経営計画の評価及び見直し(PDCA)	運営会議・スーパ―会議																
		32 [採用計画の立案] 採用職種や人数の把握、求人や採用試験の時期や方法等についての計画																	
		33 [満足度を高める仕組みの構築] 職員の配置、異動、昇進・昇格システムの見直しと改善																	
		34 [満足度を高める処遇水準の見直し] 処遇水準の現状の把握・分析と処遇改善																	
		35 [ワーク・ライフバランスの確立] ワーク・ライフバランスに配慮した職場環境の確保																	
		36 [健全な職場環境の確立] セクハラ、パワハラのない職場づくりの推進																	
		37 [職員の安全と健康の確保] メンタルヘルス、腰痛防止策、その他労働災害への対応など安全な職場づくりの推進																	
		38 [健全な職場風土づくりの推進] コミュケーションが取りやすい組織風土づくりのための組織風土の診断等、階層の意識のギャップの把握と改善																	
		39 [非正規職員の効果的な活用] 処遇向上を伴った効果的な非正規職員の活用																	
		40 [コンプライアンス体制の構築] 倫理や法令等の遵守の徹底に向けた管理体制や規定の整備																	
		41 [コンプライアンス教育の徹底] 職員に対する社会福祉関係法令、労務関連法令、虐待防止法等の適切な理解を促す場の提供																	

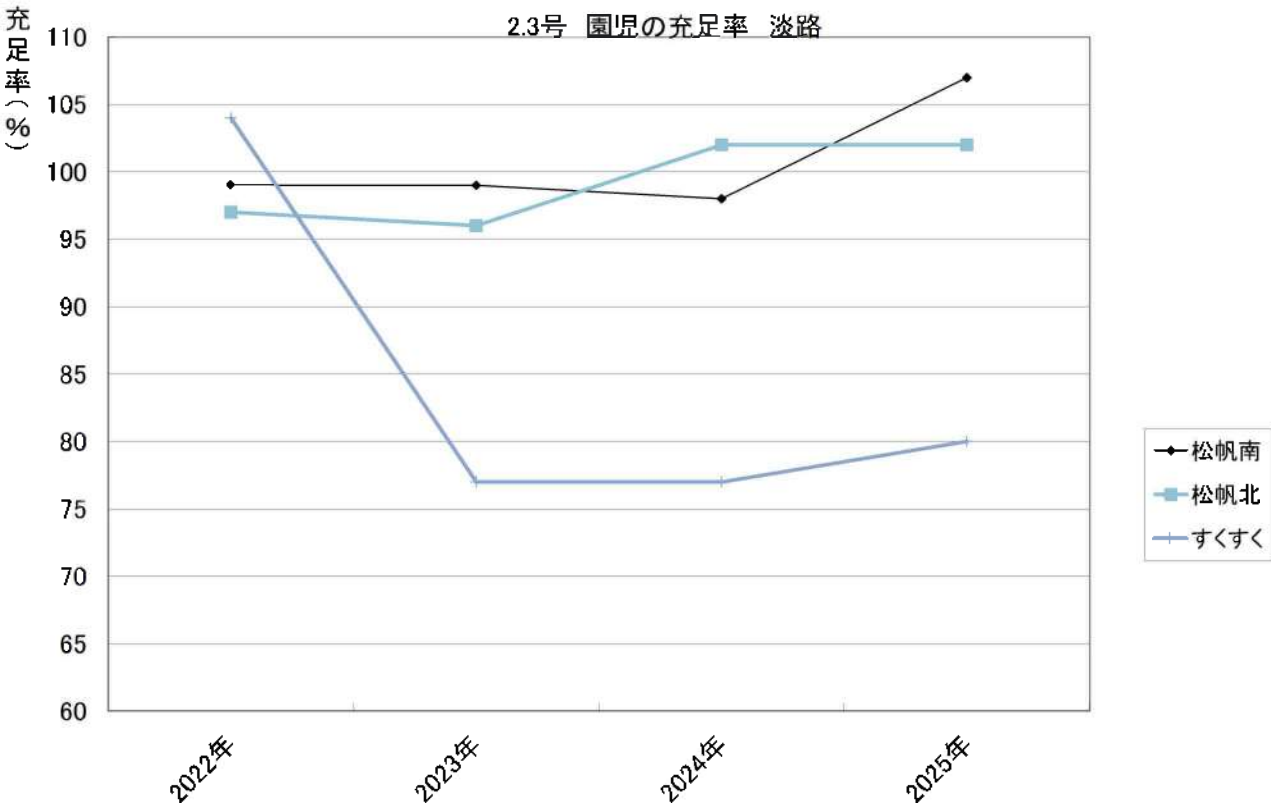
[illegible]

経営理念						経営方針			経営目標(長期ビジョン)			各会議体・委員会・担当者の役割業務										組織委員会																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
し を	す	お返	き、地域の方にお世話になり、また、迷惑をおかけし、己のために日々生活をするのである。であれば、世間に対して、一生懸命でなければ大変失礼なことだ。また、謙虚で	にお返	へとう福祉		27.福祉教育の推進	地域の幸福を願い、共生社会の構築のため、福祉教育を推進します	83	〔地域での福祉の推進〕法人内各施設が、出前授業等の学校教育への協力、ボランティアの受入れ等、福祉マンパワーの養成や住民参加による取り組みを行うための情報提供などの支援										委員会																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					

経営理念						経営方針		経営目標(長期ビジョン)			各会議体・委員会・担当者の役割業務				協議会・委員会・担当者	
					なければいけないのである。そして、以前よりは少し大きくなった自分の能力を精一杯						「信認」を構築します	124	〔地域における福祉文化の醸成〕 育成と活動支援を目的とし、子ども・高齢者・障害者との直接的な関わりを意図した地域ボランティアの積極的な受け入れや、学習の機会づくり			
												125	〔地域での福祉の推進〕 法人内各施設が、学校教育への協力、ボランティアの受入れ等、福祉マンパワーの養成や住民参加による取り組みを行うための支援			
												126	〔福祉に対する理解の促進〕 法人内各施設が講習会、講演会、勉強会等を実施し、地域住民の福祉に対する理解を促進するための支援			
												127	〔総合相談窓口〕 地域における福祉の相談窓口の設置と機能の強化			
												128	〔地域貢献事業の推進〕 社会福祉事業以外の地域における多様(福祉ニーズ以外)な生活課題等、公益的取り組みの実践			
												129	〔地域への見える化・見せる化〕 地域に対して法人・施設情報の提供やサービス内容の説明、開かれた(情報開示・提供・公表)仕組みづくりの推進等、地域とのコミュニケーションの強化			
												130	〔環境問題への配慮〕 地域の環境問題に対する取り組みの実践			
												131	〔事業計画等の公表〕 策定した事業計画等を、各委員会において職員への周知と、保護者、地域等へ発信			
												132	〔地域との連携〕 地域における社会問題や地域の課題等の解決に向け、民生・児童委員や自治会、地域団体等との定期的な連携及び具体的な取り組みの実践			
												133	〔保育・介護・障害福祉サービスに関する情報提供〕 職員の家族に対する「保育・介護・障害福祉サービス」の内容や情報の発信			
												134	〔地域活性化の取り組み〕 地域行事(まちづくり活動なども含め)への参加や共同行事の開催の企画など、地域活性化を目的とした活動の実践			
								38.地域の学校との「信頼」の構築	"顔の見える関係"をつくり、「信頼」の関係を構築します	135	〔学校との相互理解〕 学校行事への参加や、園(施設)行事・自己評価事業への招待等、"顔と顔の見える関係(世間話ができる関係)づくり"に努め、相互理解を図る					
										136	〔保育・介護・障害福祉サービス内容の研究と実践〕 上記の関わり等連携し、保育・介護・障害福祉サービスの内容を深く研究し専門性を高める					
										137	〔連携による課題解決〕 学校との連携により、地域の課題を解決					
								39.養成校・福祉を目指す学生との「信頼」の構築	"顔の見える関係"をつくり、「信頼」の関係を構築します	138	〔実習に対する丁寧な対応〕 福祉を目指す学生の「実習」に対し、明確な目標と適切な指導の下、将来の理想の姿に迎えるように援助し、「信頼」の関係を築く					
										139	〔養成校に対する丁寧な対応〕 福祉を目指す学生の「実習」に対し、明確な目標と適切な指導を行い、養成校との「信頼」の関係を築く					
										140	〔情報の収集〕 養成校の先生方との様々な機会や関わりから、保育・介護・障害福祉サービス内容に関する事項、その他福祉事業に関する事項等の情報の収集					
								40.行政・関係機関との「信任」の構築	"顔の見える関係"をつくり、「信任」の関係を構築します	141	〔隠さない組織風土の確立〕 苦情、事故などの速やかな報告に努め、オープンで好感のもてる組織風土を確立し、行政・関係機関との「信任」の関係を構築					
										142	〔情報の収集〕 行政・関係機関また、経済人等との様々な交流の機会を通じて、地域福祉計画を始めとする各種福祉計画の策定への参画及び福祉事業の経営等に関する情報の収集					
								41.マスコミとの「信用」の構築	"顔の見える関係"をつくり、「信用」の関係を構築します	143	〔隠さない組織風土の確立〕 苦情、事故などの速やかな報告に努め、オープンで好感のもてる組織風土を確立し、マスコミとの「信用」を構築					
										144	〔新たな福祉サービスの発信〕 「共生社会の創造」の実践等、"新たな福祉サービス"を積極的に発信し、マスコミとの「信用」を構築					

2.3号認定園児の充足率(令和8年度)

(%)				(人)		
淡路(充足率)				定員		
年度	松帆南	松帆北	すくすく	松帆南	松帆北	すくすく
2022年	99	97	104	60	40	19
2023年	99	96	77			
2024年	98	102	77			
2025年	107	102	80			



2.3号認定園児の充足率 神戸(令和8年度)

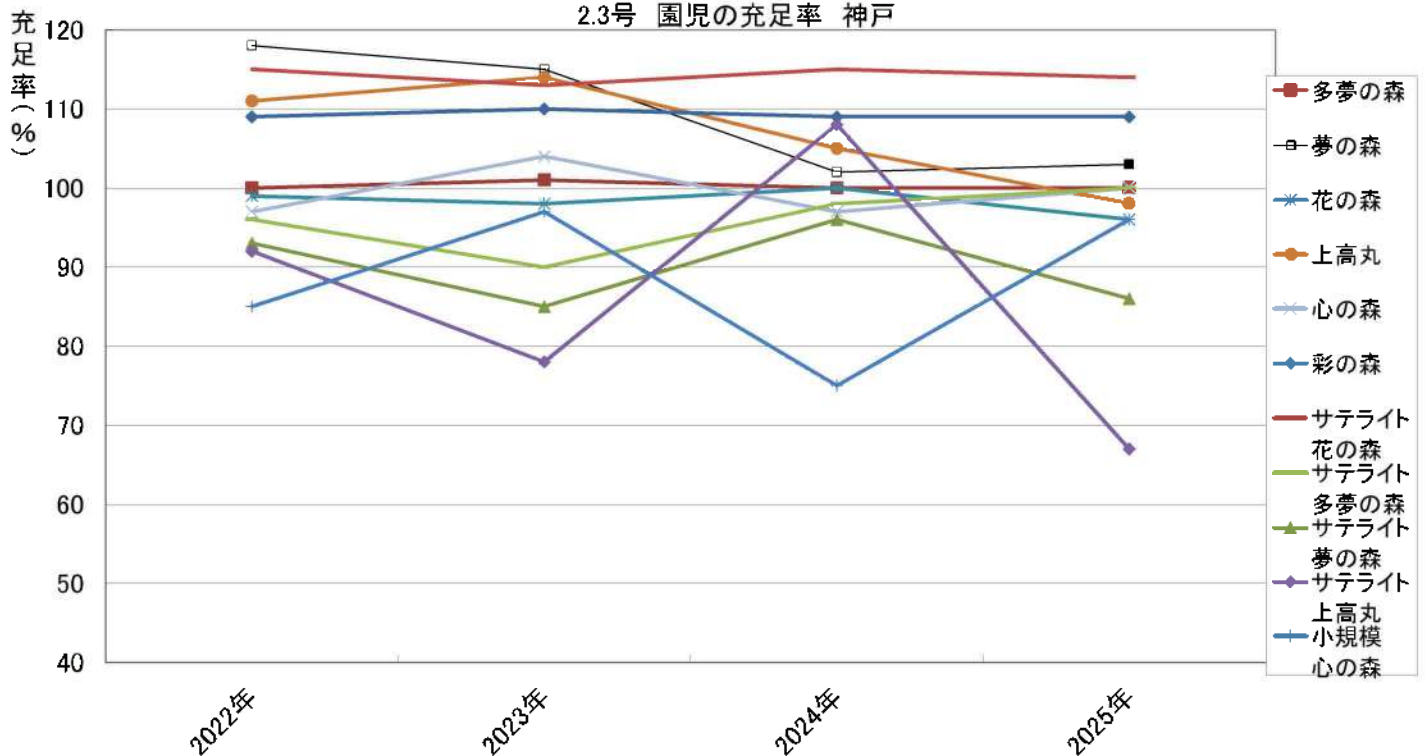
(人)

定員										
多夢の森	夢の森	花の森	上高丸	心の森	彩の森	サテライト 花の森	サテライト 多夢の森	サテライト 夢の森	サテライト 上高丸	小規模 心の森
90	60	80	70	60	60	12	19	19	12	12

(%)

神戸(充足率)											
年度	多夢の森	夢の森	花の森	上高丸	心の森	彩の森	サテライト 花の森	サテライト 多夢の森	サテライト 夢の森	サテライト 上高丸	小規模 心の森
2022年	100	118	99	111	97	109	115	96	93	92	85
2023年	101	115	98	114	104	110	113	90	85	78	97
2024年	100	102	100	105	97	109	115	98	96	108	75
2025年	100	103	96	98	100	109	114	100	86	67	96

2.3号 園児の充足率 神戸



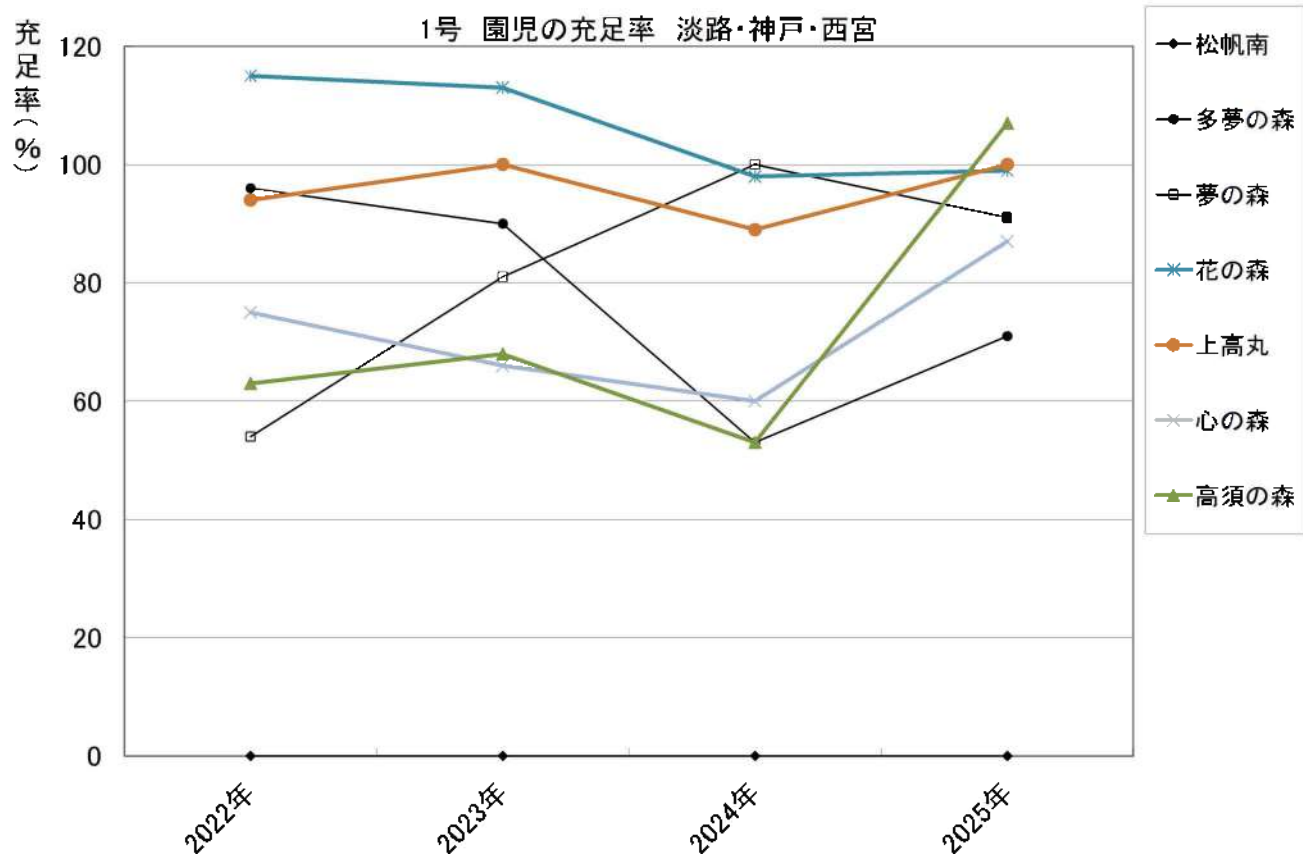
1号認定園 児の充足率(令和8年度)

充足率 (%)

	淡路	神戸						西宮
年度	松帆南	多夢の森	夢の森	花の森	上高丸	心の森	高須の森	
2022年	0	96	54	115	94	75	63	
2023年	0	90	81	113	100	66	68	
2024年	0	53	100	98	89	60	53	
2025年	0	71	91	99	100	87	107	

定員 (人)

	淡路	神戸					
	松帆南	多夢の森	夢の森	花の森	上高丸	心の森	高須の森
	6	10	10	15	15	10	15

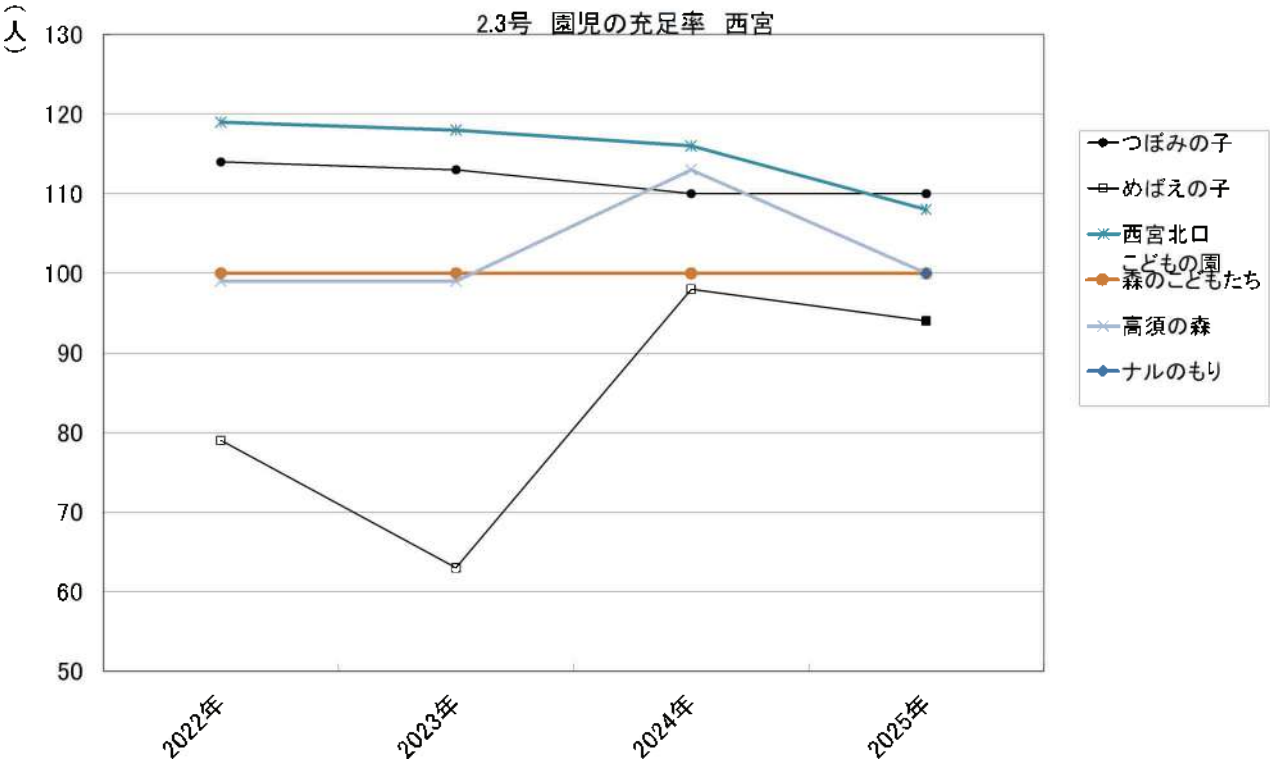


2.3号認定園児の充足率(令和8年度)

西宮					
つぼみ の子	めばえ の子	西宮北口 こどもの園	森のこどもたち	高須の森	ナルのもり
20	20	50	19	150	19

30人増

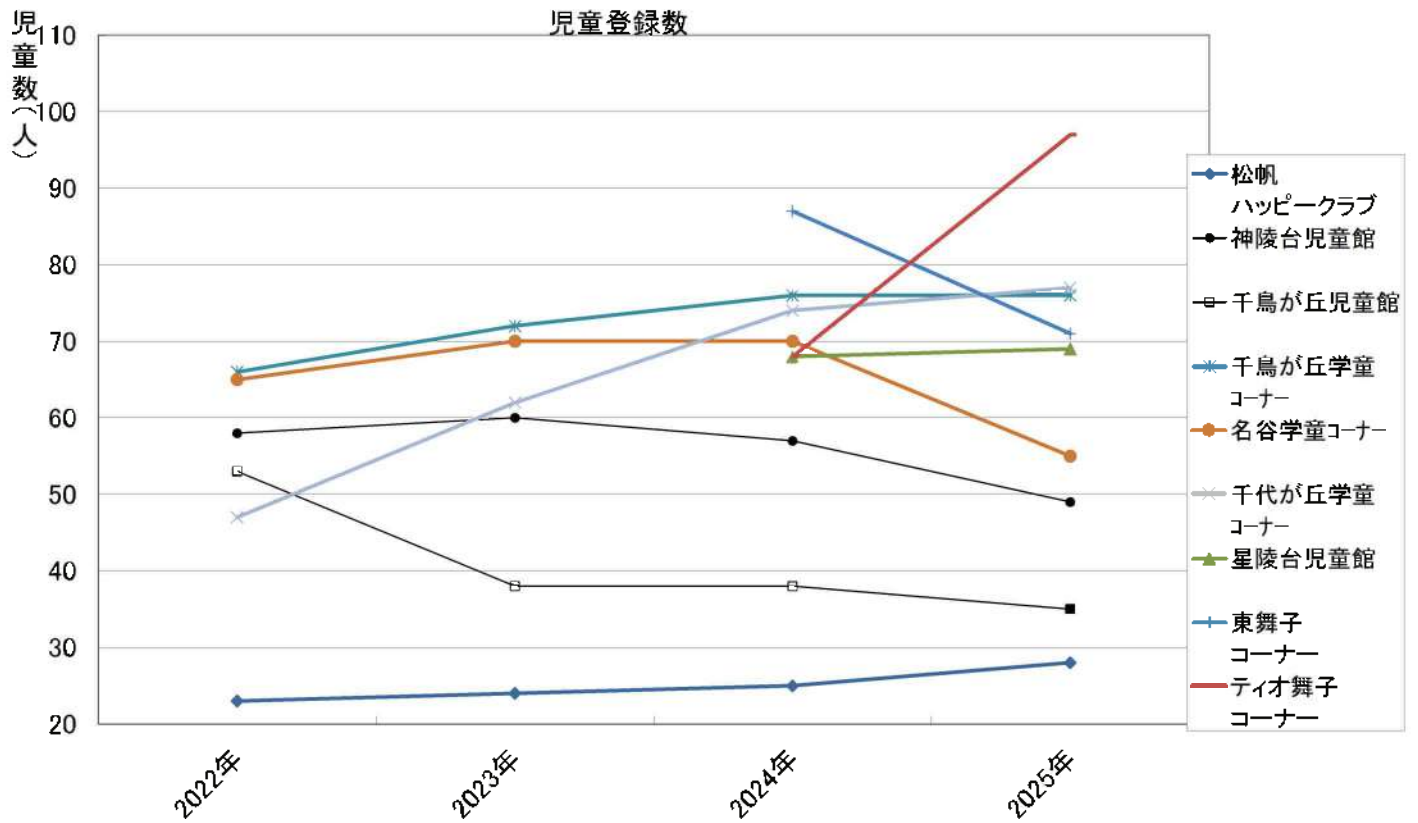
西宮						
年度	つぼみの子	めばえの子	西宮北口 こどもの園	森のこどもたち	高須の森	ナルのもり
2022年	114	79	119	100	99	
2023年	113	63	118	100	99	
2024年	110	98	116	100	113	
2025年	110	94	108	100	100	100



登録利用者数(年間平均)

(人)

年 度	淡路	神戸							
	松帆 ハッピークラブ	神陵台児童館	千鳥が丘児童 館	千鳥が丘学童 コーナー	名谷学童コー ナー	千代が丘学童 コーナー	星陵台児童 館	東舞子 コーナー	ティオ舞子 コーナー
2022年	23	58	53	66	65	47			
2023年	24	60	38	72	70	62			
2024年	25	57	38	76	70	74	68	87	68
2025年	28	49	35	76	55	77	69	71	97



2025年度 神戸市こども誰でも通園制度実施報告

(幼保連携型認定こども園彩の森)

【実施内容】

利用定員(最大)：0歳児…10名、1歳児…10名、2歳児…20名 / 月

利用形態：定期利用方式

開所時間：10:00～15:00 (給食提供有)

開所日：月～金

利用量：月2回指定曜日、1日5時間

利用料金：1時間 300円、給食費 300円、リース代(希望者)50円

【利用延べ人数】

R7年度 月	登録者数			利用延べ人数		
	0歳	1歳	2歳	0歳	1歳	2歳
4月	4	2	1	2	3	2
5月	2	2	1	0	3	2
6月	2	2	1	2	3	2
7月	8	5	1	11	10	2
8月	9	8	1	13	8	2
9月	7	6	1	12	7	2
10月	8	7	1	14	11	2
11月	9	5	0	18	4	0
12月	10	5	0	14	5	0
1月	10	5	0	16	6	0
2月	10	5	0	15	5	0
3月	13	6	0	15	6	0
計(延)	92	58	7	132	71	14

【備考】

- ・行政からの優先事案(虐待・支援等)無し
- ・0歳児の利用ニーズが高い(キャンセル待ち有)
- ・親子通園の利用は無し
- ・子育て応援事業への参加のきっかけとなり、情報の共有、横の繋がりが増えている
- ・彩の森および法人内施設への入園につながる(6世帯7人)
- ・面談や登降園時を通じて、情報の共有や成長の喜びを共有できるようになった

2025 年度 神戸市こども誰でも通園制度事業報告
(幼保連携型認定こども園上高丸)

【概要】

利用定員（最大）：0 歳児…1 名、1 歳児…1 名、2 歳児…1 名
利用形態：定期利用方式
開所時間：10：00～15：00（給食提供有）
開所日：月～金
利用日・時間：月 2 回指定曜日、1 日 5 時間
利用料金：1 時間 300 円（30 分 150 円）、給食費 300 円
布団リース使用の場合 50 円

【利用の流れ】

- 1、電話にて登録の申し込み、希望曜日の確認、面談日の調整
- 2、面談（制度・利用内容の説明、子どもの状況、園の取り組み・見学、申請 等）
- 3、申請児童名簿を神戸市に提出
- 4、神戸市より未就園児であることの確認・回答
- 5、利用開始

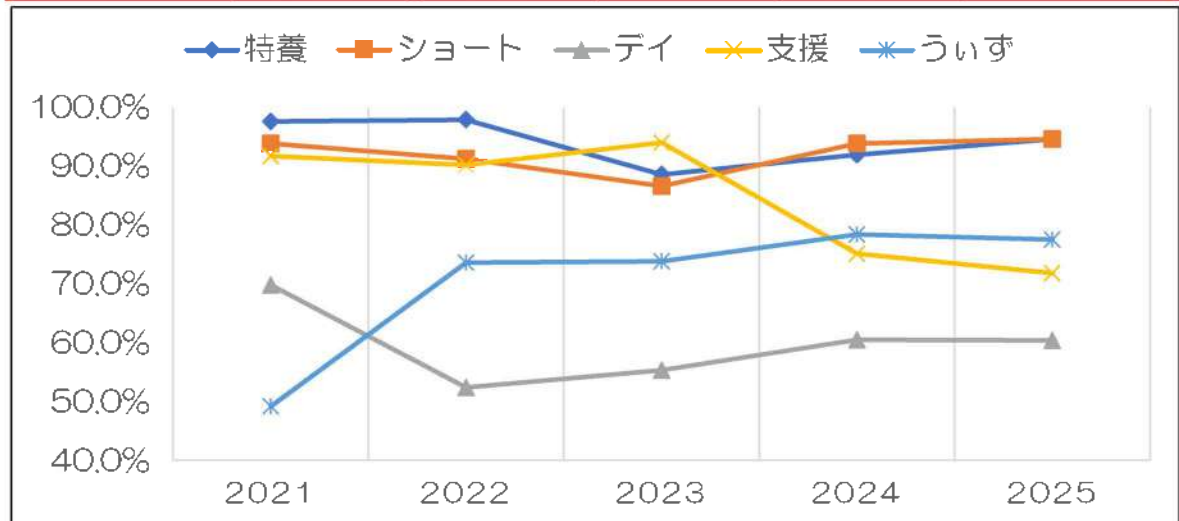
【実績】

後期	登録者数			利用延べ人数		
	0歳	1歳	2歳	0歳	1歳	2歳
10月	2	0	0	0	0	0
11月	7	0	0	1	0	0
12月	7	0	1	6	0	0
1月	8	0	1	9	0	0
2月	8	0	1	10	0	0
3月	9	0	1	6	0	0

【備考】

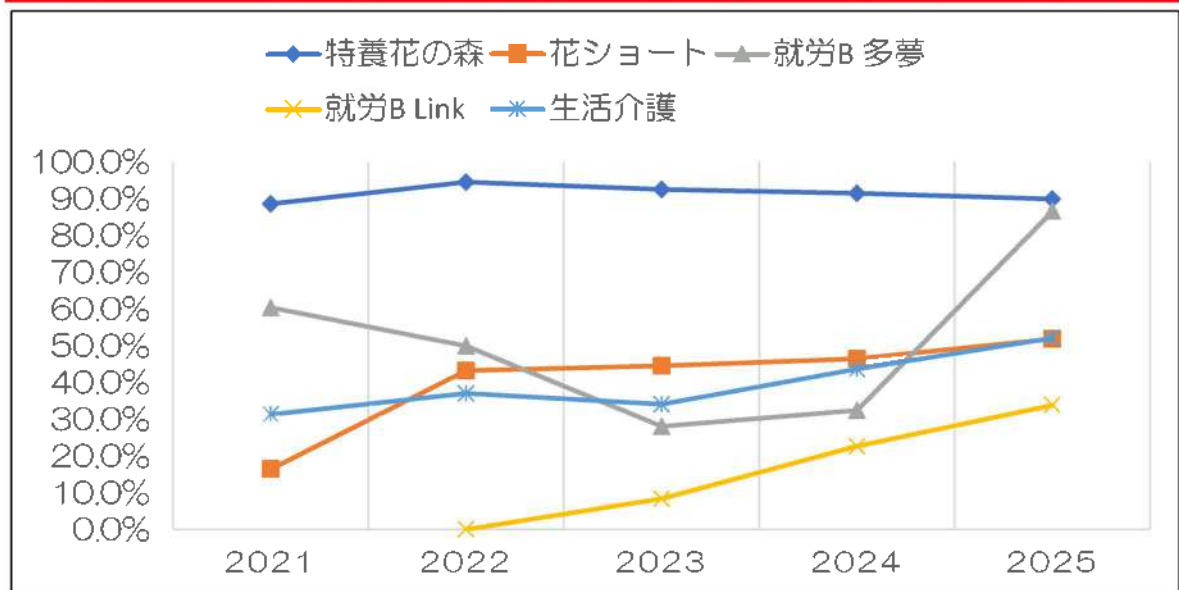
- ・行政からの優先事案（虐待・支援等）無し
- ・0 歳児の利用ニーズが高い
- ・1 名入園に繋がった

年度	どんぐりの里				ういず
	特養	ショート	デイ	支援	
2021	97.6%	93.8%	69.8%	91.7%	49.2%
2022	97.9%	91.2%	52.4%	90.2%	73.6%
2023	88.6%	86.6%	55.3%	94.0%	73.8%
2024	91.9%	93.8%	60.5%	75.1%	78.4%
2025	94.6%	94.6%	60.4%	71.8%	77.5%



(※居宅支援の実績は2024年度から定員上限変更：ケアマネ1人当たり39名→44名に増員)

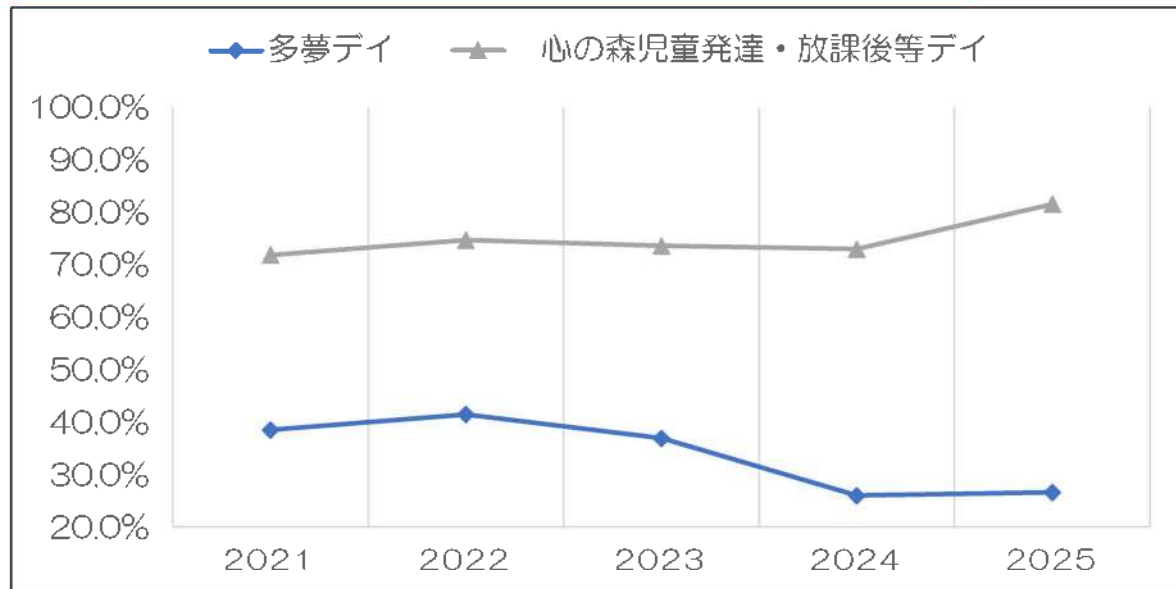
年度	特養花の森	花ショート	就労B 多夢	就労B Link	生活介護
2021	88.6%	16.4%	60.3%		31.3%
2022	94.5%	43.2%	49.9%	2023年3月～	37.0%
2023	92.5%	44.5%	28.0%	8.3%	34.0%
2024	91.4%	46.4%	32.4%	22.6%	43.6%
2025	89.9%	51.8%	86.6%	33.8%	52.1%



(※就労継続支援B型Linkの実績は2024年5月から定員変更：20名→10名に減員)

(※就労継続支援B型多夢は2025年4月から定員変更予定：20名→10名に減員)

年度	多夢デイ	心の森児童発達・放課後等デイ
2021	38.5%	71.9%
2022	41.5%	74.7%
2023	36.9%	73.6%
2024	26.0%	73.0%
2025	26.6%	81.6%



令和7年度事業報告書

施設	経営目標	№	各会議体・委員会・担当者の役割業務（重点目標）	計画(P) ※具体的な内容と回数【年間〇回(前期〇回 後期〇回)】	取組み(D)	評価・要因分析(C)		改善(A)	次期計画 ※具体的な内容と回数 【年間〇回(前期〇回 後期〇回)】
						年間の計画 達成度	要因分析と評価		
幼 保 法 規 型 認 定 こ ど も 園	34. 職員・職員の家族との「信頼」の構築	98	〔信実の高知・徹底〕 「信実」の明確化や高知・徹底	月ごとに信実の強化項目を決め、職員に周知・実施した上で振り返りをおこなっていく 【年間12回（前期6回 後期6回）】	毎月の勤務表に記載、園内のタイムカード横にも掲示を行い職員会議の際に時間を設ける	100%	声に出すことでより職員の信実に対する意識が変わり思いを聞くことができた	会議に参加しない職員の思いをきくことまではできていないので、合間の時間を利用して、聞けるようにしていく	今後も会議の際に信実について話ができる時間を作り、継続して取り組んでいく 【年間12回（前期6回 後期6回）】
	35. 子ども・高齢者・障害者との「信任」の構築	113	〔災害対策〕 非常災害に対する個別の計画を準備し、それに基づく有効性ある訓練の実施	非常勤職員も巻き込みフラインド型ロールプレイ訓練を実施する 【年間1回（前期1回 後期0回）】	8/4に園内にて非常災害時のシナリオブラインド型ロールプレイ訓練を実施	100%	非常勤職員も参加してシナリオブラインド型ロールプレイ訓練することで、自分自身の行動のあり方を考える機会となった	様々な災害の想定を具体的にし、災害に対する意識を高めていく	次年度、園寧研修としてシナリオブラインド型ロールプレイ訓練を実施する 【年間1回（前期1回 後期0回）】
	37. 地域との「信認」の構築	132	〔地域活性化の取り組み〕 地域行事（まちづくり活動なども含め）への参加や共同行事の開催の企画など、地域活性化を目的とした活動の実践	松帆地域まちづくり協議会や西淡ふるさと音頭保存会に職員を巻き込み地域のイベントに参加する 【年間3回（前期2回 後期1回）】	5/16松帆地域づくり協議会・8/25西淡音頭保存会7/13・7/26慶野まつりにて西淡音頭披露10/19松帆公民館まつり・11/3松帆敬老交流会・3/13夕方マーケットにて西淡音頭披露し参加	100%	地域のイベントに園児が参加し西淡音頭を披露したことで、地域の方にも喜んでいただき、イベントを盛り上げることができた	地域の方と一緒にする機会をイベントだけでなく、日常にもできる機会を設ける	10/1のイベント前に、西淡音頭同好会の方に呼びかけ、西淡音頭を伝授していただき交流の機会を設ける 【年間2回（前期1回 後期1回）】
幼 保 法 規 型 認 定 こ ど も 園	35. 子ども・高齢者・障害者との「信任」の構築	112	〔安全な環境の維持〕 防災設備の維持管理及び設備・備品の管理等、子ども、高齢者、障害者にとって安全な環境を維持管理する	定期的に防災設備の点検をすると共に、避難訓練を実施する 【年間12回（前期6回 後期6回）】	計画に沿って防災訓練を14・11、5・2、6・11・7・3、8・6、9・1、10・23、11・10、12・17、1・16、2・14、3・11）を実施、防災設備の点検を南淡路市消防士の方に11・7にいただいた	100%	計画に沿った実施を想定した避難訓練を毎月実施すると共に、防災設備については関係機関による点検を受け、安全管理に努めた。又、実際の場面を想定しロールプレイ訓練や職員間での話し合いを行うことで、災害時の対応を具体的に考える機会となった	訓練後に記録を確認し、役割分担などについて職員が自ら行動できるようにする	計画に沿って月1回の訓練を実施するとともに防災設備の点検を実施し、災害時に子どもたちの安全を守るよう、実践的な訓練と環境設備に努める 【年間12回（前期6回 後期6回）】
	36.保護者との「信頼」の構築	115	〔保護者等のニーズの把握・理解〕 保護者や家族の声を聞き満足度を把握し、職員参加の下、保育・介護・障害福祉サービス改善の取り組みを推進	保護者に来ていただく行事毎にアンケートを実施し公表する 【年間5回（前期3回 後期2回）】	春の遠足（5・21）ねえみてみての会・ふれあいの日（6/2～6・6）みてみてプロジェクト会（7・8）親子で光の探求プロジェクト（11・4・5・11・12・13）（12・2）ふれあいの日（2・17・19・20・24・27）を実施しアンケートを取り、アンケート結果を掲示した	100%	保護者参加型の行事ごとにアンケートを実施したことで、保護者の思いや意見を丁寧に受けとることができ、共有することができた。 又、「親子で光のプロジェクト」など実際に探究活動を体験していただく場を設けたことで、子どもたちが学びに学びに向かう家庭や環境を通じた育ちの大切さについて理解を深めていただくことができた	アンケートだけでなく、行事後の対話や日々のコミュニケーションを大切にしながら、保護者と直接子どもの成長を共有できる場づくりを進めています。今後は探究活動のねらいや子どもたちの試行錯誤の課程がより伝わるよう、写真・掲示・体験型の発信方法を工夫する	今後もアンケート実施や日々の会話の中で、探究活動について子どもたちの学びの課程や環境の重要性を共に感じられるように保護者との信頼関係を築いていく 【年間5回（前期3回 後期2回）】
	38.地域の学校との「信頼」の構築	133	〔学校との相互理解〕 学校行事への参加や、園（施設）行事・自己評価事業への招待等、"敵と顔の見える関係（世間話ができる関係）づくり"に努め、相互理解を図る	小学校との交流に積極的に参加し、信頼関係を築き交流を深める 【年間8回（前期4回 後期4回）】	松帆小学校とのかけはしプログラム連絡会（6/9・6/27・8/7/9・30・12/22） 松帆小学校交流会（6/16・6/26・7/3・9/19・10/6・10/21・11/13・12/18） 5歳児の就学先の職員見学（7/28,29・8/25）に実施した	100%	子ども同士の交流はもちろん、松帆小学校教職員（4名）が来園していただいた事で、園で大切にしている学びや育ちについて理解と評価をいただけた	園での取り組みや子どもの姿を知っていただけるように連携していく	松帆小学校とのかけはしプログラムを、継続して進め、子どもたちが安心して就学を迎えられるようにしていく 【年間8回（前期4回 後期4回）】
す く す く 保 育 園	34. 職員・職員の家族との「信頼」の構築	100	〔健全な職場環境の確立〕 ワークライフバランスを意識した職場環境づくりに努めると共に、セクハラ、パワハラのない職場づくりの推進	園々の業務内容を月1回の会議にて把握し、1日1時間の事務時間を有効に使えるように計画する 【年間12回（前期6回 後期6回）】	個々の業務内容を月1回の会議（4・10・5・9・6・10・7・10・8・8・9・9・10/9・11・7・12・10・1・9・2・8・3・6）にて把握し、1日1時間の事務時間を有効に使えるように計画した	100%	事務時間を設けたことで計画性が出来た	今後も事務時間を設け、ため込まないように話を聞いたり、声をかけたりしていく	今後も会議を月1回実施を継続し、職員間の信頼関係を築いていく 【年間12回（前期6回 後期6回）】
	35. 子ども・高齢者・障害者との「信任」の構築	104	〔自己決定と選択の尊重〕 子どもや高齢者・障害者にとって選択できる環境や選択肢が提示されるなど、「自己決定」が尊重される仕組みや環境づくりの実践及び検証・報告	日々の活動の記録を検証し月1回自ら振り返りを行うとともに職員間で意見を交わしながら、検討・改善を行う 【年間12回（前期6回 後期6回）】	日々の活動記録（プロジェクト内容等）を月1回の会議（4・10・5・9・6・10・7・10・8・8・9・9・10/9・11/7・12/10・1/9・2/6・3/6）にて検証し改善策を話し合った	100%	継続して保育の振り返りの機会を確保し（毎月1回）、その機会の中で課題として上げることができている	今後も会議を実施し（毎月1回）振り返り、語り合う時間を設けていく	時期により、課題の内容を精査しながら振り返りを実施していく 【年間12回（前期6回 後期6回）】
	36. 保護者との「信頼」の構築	115	〔保護者等のニーズの把握・理解〕 保護者や家族の声を聞き満足度を把握し、職員参加の下、保育・介護・障害福祉サービス改善の取り組みを推進	直接見てもらう機会を作り発信していく 【年間3回（前期0回 後期3回）】	保護者参加行事の開催実施（1・20・12・24・2・3）	100%	保護者参加行事の開催実施した（1・1・20・12・24・2・3）	保護者参加型行事は実施したが、アンケートを取っていないので実施していく	保護者参加型行事を開催し、アンケートを取り、保護者との信頼関係を築いていく 【年間3回（前期1回 後期2回）】

令和7年度事業報告書

施設	経営目標	№	各会議体・委員会・担当者の役割業務（重点目標）	計画(P) ＊具体的な内容と回数【年間○回(前期○回 後期○回)】	取り組み(D)	評価・要因分析(C)		改善(A)	次期計画 ＊具体的な内容と回数 【年間○回(前期○回 後期○回)】
						年間の計画達成度	要因分析と評価		
幼保連世多夢の森幼稚園	35.子ども・子ども・高齢者・障害者との「信頼」の構築	104	〔自己決定と選択の尊重〕 子どもや高齢者・障害者にとって選択できる環境や選択肢が提示されるなど、「自己決定」が尊重される仕組みや環境づくりの実践及び検証・報告	日々の振り返りを大切にし、エリアやアトリエにて関いのある環境を共に整え、より質の高い自己決定を保障していく 【年間12回(前期6回 後期6回)】	フロア会議の中で環境について話し合いを実施 4/23、5/19、6/20、7/15、8/18、9/2、10/10、11/5、12/11、1/16、2/5、3/10	100%	計画に沿って会議を実施し、その都度考え合う機会を持つことで、職員同士でねらいを確認し合いながら、子どもが過ごす環境を整えることができた	会議での対話を通して都度関いのあるエリアやアトリエを整えることができたが、日々の振り返りは個々の努力に任せる形となり、中々実現できなかった	日々の振り返りの関権が難しい分会議の回数を増やすことで対話機会を持つことができたので、短い時間でもこまめに会議時間（対話の機会）の確保をしていく
	36.保護者との「信頼」の構築	116	〔保護者、地域への説明〕 法人が提供する保育・介護・障害福祉サービス内容について、保護者や地域住民等に対して説明する機会を設ける	子どもと利用者が主体となり地域に向けての展示会準備を実施できるよう支えていく(森のおうちを利用した地域への見える化として) 【年間1回(前期1回、後期0回)】	森のおうちで展示会を開催 8/18～8/29	100%	保育教諭が丁寧にないだことで、子どもたちが主体的に準備に参画したり、利用者の月々に広報してもらったりすることができた	次年度も子どもや利用者の月々が目的を持ち参画できるようにつないでいく	次年度も継続して子どもたちの取り組みを地域に発信できるようにしていく
	38.地域の学校との「信頼」の構築	133	〔学校との相互理解〕 学校行事への参加や、園（施設）行事・自己評価事業への招待等、「誰と顔の見える関係（士間話ができる関係）づくり」に努め、相互理解を図る	交流や研修の計画、実施を通じて相互理解を図ることができるようにしていく 【年間3回(前期1回、後期2回)】	小学校教員に園内を視察いただき、オープンスクールで小学校を訪問。音楽会鑑賞や図書館訪問という形で交流も実現できた 8/6、11/7、2/9、1/23、2/13	100%	視察時、教育・保育の具体的な内容をプレゼンし、大助にしていることや、小学校教育でもヒントになりそうなことを改めて考え合う機会となった	機会が増えたことで職員同士は顔の見える関係性になれたが、園児と児童は特別機会での関わりとなっため、日常での交流も入れていきたい	特別な場での交流だけでなく、日常の中で関わるができる機会も設けていく
幼保連抗争の森認定こども園	35.子ども・高齢者・障害者との「信頼」の構築	106	〔虐待を発生させない体制づくり〕 虐待を発生させないことを目的にチェックリストの活用等、職員が自己の支援について振り返る機会の提供	子どもと大人の 인권について考える園内研修を実施し、チェックリストを用いた振り返りを行っていく 【年間2回(前期1回、後期1回)】	7月の質向上委員会にて人権擁護の観点から食事援助をテーマとした体験型の研修を小グループに分かれて実施した (7/28,29,30,31) 11月には世界こどもの日に合わせて人権研修を実施した (11/10,12,13)	100%	行動や援助の良し悪しではなく個々の育ちや感情を踏まえた援助が大切であると改めて振り返る機会となった 他施設職員と研修を行ったことで視野も広がった	継続して他施設と交えた園内研修の実施をしていく	委員会を通して研修の計画と実施 【年間2回(前期1回 後期1回)】
	37.地域との「信頼」の構築	128	〔環境問題への配慮〕 地域の環境問題に対する取り組みの実践	子どもたちまたは職員がゴミ拾い活動を継続的にやりよりよい町づくりを考えていく 【年間5回(前期1回、後期4回)】	土曜保育時に少人数で近隣のゴミ拾い(4/5) 土曜日保育時に少人数で近隣のゴミ拾い (10/11)(10/25)(11/8) 保護者参画町探検にてゴミ拾い (11/15)	100%	少人数の異年齢で取り組んだことで多様な意見に触れる機会になった 暑さの厳しい時期が長い為園外に出掛けられる機会が少なくなっている	暑さが厳しくなる前の4月5月、寒くなる前の10月11月に取り組みように計画していく	土曜保育時に少人数での取り組みを継続実施していく 【年間5回(前期2回 後期3回)】
	38.地域の学校との「信頼」の構築	133	〔学校との相互理解〕 学校行事への参加や、園（施設）行事・自己評価事業への招待等、「誰と顔の見える関係（士間話ができる関係）づくり」に努め、相互理解を図る	小学校と交流やカリキュラムの検討などの話し合いを通して相互理解を図っていく 【年間6回(前期1回 後期5回)】	1年生担任とカリキュラム共有と計画(7/29) 児童音楽会への参加(10/23) 夢の森園庭にて交流11/12) 協働授業開催の検討会(12/26) 小学校にて協働授業実施(1/27) 1年生による学校紹介への参加(2/20)	100%	小学校の先生は夏休みに入った7月末に予定が組みやすいことが昨年の反省から見えだ為事前にアポイントをとることができ具体的な話し合いを行う時間となった	今年度相互理解の元見通しをもって計画実施を行えたので次年度は内容を精査しつつ同じ時期に取り組みを継続して行っていく	今年度の取り組みを基準にして次年度内容を精査実施していく 【年間6回(前期1回 後期5回)】
幼保連世多夢の森認定こども園	34.職員・職員の家族との「信頼」の構築	99	〔意欲ある職場環境〕 定期的な個別面談や、会議等で職員に意見を求めるなど、意欲ある職場環境づくりの推進	定期的な声掛け、個々の業務を把握し、グループ同士の連携が図れるよう必要に応じて主幹（フリー）会議を行う 【年間6回(前期3回 後期3回)】	4/6、4/21、6/3、7/4、8/18、9/18、10/27、12/27、2/12、3/10	100%	フリー会議をすることで職員周知や関りことを改善できる方法を考えたり、良い方向に向かえる様に考えたりすることができた	個別面談については、その都度必要に応じて行うことの大切さを感じた。	それぞれのリーダーとの会話を多くしたり、業務改善や時間の使い方を意識して取り組んでいきたい
	35.子ども・高齢者・障害者との「信頼」の構築	106	〔虐待を発生させない体制づくり〕 虐待を発生させないことを目的に、チェックリストの活用等、職員が自己の「支援」について振り返る機会の提供	子どもの「人権擁護のチェックリスト」を用いた会議に関わる園内研修を実施し、職員が自己の支援について振り返る機会を設けていく 【年間2回(前期1回 後期1回)】	6/25、7/24、8/20、12/1	100%	状況に合わせて振り返る機会を設け、質向上の委員と話し合い実施できた	実際に体験する研修は、職員自身でも体験して初めて感じる嫌悪感や表情・言葉の使い方などを再確認できた事が良かった。後期は、非常勤を巻き込むことができていなかった。	人権の研修の関しては常に意識する必要があるものの、自己の支援に關しての意識を前期・後期のタイミングで全職員が振り返ることができるように計画していく
	38.地域の学校との「信頼」の構築	133	〔学校との相互理解〕 学校行事への参加や、園（施設）行事・自己評価事業への招待等、「誰と顔の見える関係（士間話ができる関係）づくり」に努め、相互理解を図る	近隣小学校に向けて、自施設での取り組みを伝え学びの共有の場を設けたり、小学校の関りごとなど取り組みの中で、協力しながら、学校との交流を深めたりしていく 【年間6回(前期3回 後期3回)】	5/2、7/15、11/28、2/20 学校運営協議会出席 6/27、7/1、7/3 水泳授業学習支援 10/27 内部評価事業に小学校校長出席いただき意見交換 11/5 小学校音楽会見学 1/29 昔遊び会参加 2/2 小学校感謝の会【登校見守り】 2/10 小学校連絡会、意見交換会 3/4 小学校体験会	100%	引き続き学校運営協議会に出席することで、学校との連携が深まった。今年度は、学校からの水泳の学習支援の人員不足の困りことから、3日間園から参加させていただいたり、内部評価事業では連携小学校校長が参加くださり、有意義な時間となった。	今までは、副園長が学校に行くことが多かったが、水泳学校支援に幼児担任が出席できたことで、卒園児のその後への成長を見ることができ、より意識が高まった。今後も、職員が参加できる機会を多く持っていきたい	学校との連携ができてきていることから、一緒に授業をしてみたいと提案したり、自然体験授業の一環として園の竹林に来ていただきたいなど提案をしたので実現できそうなことを探していきたい 【年間6回(前期1回 後期5回)】

令和7年度事業報告書

施設	経営目標	№	各会議体・委員会・担当者の役割業務（重点目標）	計画(P) ＊具体的な内容と回数【年間〇回(前期〇回 後期〇回)】	取組み(D)	評価・要因分析(C)		改善(A)	次期計画 ＊具体的な内容と回数 【年間〇回(前期〇回 後期〇回)】
						年間の計画 達成度	要因分析と評価		
幼 保 連 携 上 型 高 認 定 こ と も 園	36.保護者との「信頼」の構築	118	〔取組みの発信〕 信頼を築くことを目的に、日頃から高齢者・障害者・保護者へ安全性を高めるための取り組み等の発信	保護者へ避難訓練への参加の呼びかけをしたり、職員の人権擁護の研修結果を保護者に発信する 【年間2回(前期1回 後期1回)】	7/19、8/7、11/6、1/8、に保護者に避難訓練への参加を呼びかけ、参加していただいた	100%	登降園時に避難訓練を実施することで、保護者の方に参加いただき、安全について共に考えることができた	人権擁護の研修に取り組んだが、保護者の方には発信できなかった	保護者と共に園内の安全性を考えたり、人権について考えたりできる機会を設けていく
	37.地域との「信頼」の構築	122	〔環境問題への配慮〕 地域の環境問題に対する取り組みの実践	園の周辺清掃や公園のゴミ拾いを子どもたちと共に実施する 【年間6回(前期3回 後期3回)】	5/1、5/22、6/4、6/20、7/4、1/24、1/30、3/9子どもたちと共に園周辺やぐが公園、千鳥が丘公園のゴミ拾いを実施	100%	子どもたちのゴミ拾いの意識が高く、積極的に取り組む姿が見られる。また、何故ゴミが落ちているのか、どうすればよいかを意見を出し合っていた	今後も継続して地域の環境問題を考える機会を作ると共に、実際にゴミ拾いすることで心地よくなる体験を重ねる	継続してゴミ拾いを子どもたちと共に実施し、地域の環境について意識を高める。また、園周辺の花壇の整備をし、地域の恵しの場を提供していく
	38.地域の学校との「信頼」の構築	133	〔学校との相互理解〕 学校行事への参加や、園（施設）行事・自己評価事業への招待等、「誰と顔の見える関係（人間図がでる関係）づくり」に努め、相互理解を図る	施設評価事業へ小学校教員を招待したり、小学校の授業を見学したり、子どもたちが交流できる機会を小学校教員と共に検討したりして連携を深めていく 【年間3回(前期1回 後期2回)】	5/10 授業を見学 7/9 小学校の施設体験でフール使用 7/22 意見交換会 9/10 授業を見学 9/20 内部評価 事業にきてもらい意見交換 10/24 フレ音楽会見学 12/15 秋まつりに参加 2/2 意見交換会 2/17,18 ピオトープ活動参加	100%	小学校のフール体験を行うにあたり、教員と密に相談することができ信頼関係が深まった。秋まつりやピオトープでの交流を通してお互いの学びを繋ぎ、子ども達同士の姿も見るようになってきた	秋から冬にかけては感染症が流行し、交流が中止となってしまった。今後は小学校のピオトープでの活動を通して、日頃からの交流を継続しながら途切れなく連携していく	教員と保育教諭の交流を増やし、顔と顔の見える関係作りを継続すると共に、小学校との学びを接続していけるよう、継続できる方法を考えて実施していく
幼 保 連 携 心 の 認 定 こ と も 園	34.職員・職員の家族との「信頼」の構築	100	〔健全な職場環境の確立〕 ワークライフバランスを意識した職場環境づくりに努めると共に、セクハラ、パワハラのない職場づくりの推進	ノンコンタクトタイムの取得に向けて状況把握を目的とした会議を行う 【年間2回(前期1回 後期1回)】	4/18 職員会議時 10/17,23 グループ会議時 ノンコンタクトタイム確保のための意識統一を行う	100%	ノンコンタクトタイムの確保のために個別の時間の使い方やグループ内での協力体制についての共有理解を図ることができた	日々意識はできていることになってきてはいるが、定期的な見直しや時間確保に向けた全体の周知が必要なので、継続的に時間を設けていく	個別懇談時に、個別カリキュラムを用いて教育・保育・支援の内容を説明する 【年間2回 (前期1回 後期1回)】
	35.子ども・子ども・高齢者・障害者との「信任」の構築	113	〔災害対策〕 非常災害に対する個別の計画を準備し、それに基づく実効性ある訓練の実施	BCPを用いて大規模災害時のシミュレーション研修を行う 【年間2回(前期1回 後期1回)】	8/13,25 3/11 BCPを用いたロールプレイング型災害訓練を実施した	100%	BCPを周知する機会として、さらに南海トラフ地震にも備えるための訓練を実施できた	いつ何時起こるか想定ができない災害に向けての対策が必要である。そのために様々な時間帯での訓練の必要性がある	土曜日や職員帰宅時など職員体制がそろっていない状態での大規模災害シミュレーションを実施する 【年間2回(前期1回 後期1回)】
	36.保護者との「信頼」の構築	115	〔保護者等のニーズの把握・理解〕 保護者や家族の声を聞き満足度を把握し、職員参加の下、保育・介護・障害福祉サービス改善の取り組みを推進	個別懇談時に、個別カリキュラムを用いて教育・保育・支援の内容を説明する 【年間2回(前期1回 後期1回)】	11/15～21 ふれあい週間時 1/29～2/10 個別懇談実施時 個別カリキュラムを用いた支援内容の説明を行う	100%	個別カリキュラムを活用することによって、子どもの育ちを見通しを持って検討と考察していることを保護者の方と共有できた	個別カリキュラムを用いたが保護者の想いや願いについてを内容に入れ込んで継続的に検討する必要がある	個別懇談時に、個別カリキュラムを用いて教育・保育・支援の内容を説明する 【年間2回(前期1回 後期1回)】
幼 保 連 携 心 の 認 定 こ と も 園	34.職員・職員の家族との「信頼」の構築	99	〔意欲ある職場環境〕 定期的な個別面談や、会議等で職員に意見を求めるなど、意欲ある職場環境づくりの推進	担当部署会議や個別面談を通し、職員の主体性も尊重した保育の展開ができるように、計画や内容、振り返り等の語り合いを十分に行っていく 【年間12回(前期6回 後期6回)】	2回/月 担当部署会議 1回/月 職員会議 5/9 正規職員 個人面談 8/4～8/22 全職員 個人面談	100%	計画に沿って担当部署や職員会議を実施することで、情報共有や園内研修を行うことができ、保育内容についての検討も会議の中に組み入れることができた	情報共有がより全職員へ浸透する方法や、保育内容について十分に検討できる時間の確保、研修内容を日々の保育実践へつなげる取り組みを考慮していく	担当部署会議や個別面談を通し、職員の主体性も尊重した生活、保育の展開ができるように、計画や内容、振り返り等の語り合いを十分に行っていく 【年間12回(前期6回 後期6回)】
	35.子ども・子ども・高齢者・障害者との「信任」の構築	113	〔災害対策〕 非常災害に対する個別の計画を整備し、それに基づく実効性ある訓練の実施	会議・法人内研修時に、マニュアル・BCPの職員周知をし、計画に基づいた想定訓練の実施をする 【年間2回(前期1回 後期1回)】	5/13 地震想定訓練 7/3 地震・火災想定訓練 8/5 台風・土砂災害想定訓練 8/25 プラインド型 ロールプレイ訓練 11/5 地震・津波想定訓練 1/16 地震想定訓練 3/11 地震・津波想定訓練	100%	リスク委員が中心となり、災害を想定した定期的な訓練の実施ができたが、マニュアル、BCPの職員周知、理解の個人差が課題となる	マニュアルやBCPについて、職員参画のもと、定期的な見直し、読み合わせや実践的な訓練・振り返りを取り入れ、職員全体の理解度・共通認識の向上に努める	計画に基づく想定訓練を実施し、その振り返りを通して、非常災害に関する個別計画・マニュアル・BCPを見直すとともに、職員への周知を徹底する 【年間2回(前期1回 後期1回)】
	38.地域の学校との「信頼」の構築	134	〔保育・介護・障害福祉サービス内容の研究と実践〕 上記の関わり等連携し、保育・介護・障害福祉サービスの内容を深く研究し専門性を高める	継続性のある共同カリキュラム作成に向け、共に検討・協議をする場を持つ 【年間2回(前期1回 後期1回)】	7/22 小学校にて意見交換会 9/10 小学校授業見学 12/15 共同プログラム実施 1/19 評価事業にて意見交換 2/4 情報・意見交換	100%	共同カリキュラムについての意見交換会の実施に加え、学校行事や共同プログラム、フール体験、園評価事業への参加など、交流の機会が増えたことで、相互の関係性や理解を深めることができた	交流や協議の目的や内容をさらに充実させるとともに、共有した内容を保育や教育実践に活かし、継続した共同カリキュラム作成に向けた協議を重ねていく	交流や協議の目的や内容を明確にし、得られた学びを日々の実践へさらに反映できるよう取り組み、継続性のある共同カリキュラム完成に向け、共に交流・検討・協議を重ねていく 【年間4回(前期1回 後期3回)】

令和7年度事業報告書

施設	経営目標	№	各会議体・委員会・担当者の役割業務（重点目標）	計画(P) ※具体的な内容と回数【年間〇回(前期〇回 後期〇回)】	取組めみ(D)	評価・要因分析(C)		改善(A)	次期計画 ※具体的な内容と回数 【年間〇回(前期〇回 後期〇回)】
						年間の計画 達成度	要因分析と評価		
小規模保育事業 花の森サテライト型	34.職員・職員の家族との「信頼」の構築	106	【信条の周知・徹底】 「信条」の明確化や周知・徹底	信条の強化月間を定め定期的に発信することで、周知の徹底を行う 【年間12回(前期6回 後期6回)】	月初めにトイレ・タイムカード横に掲示をしている(計12回) ※5月のみ4月分を継続して掲示	100%	トイレに掲示をしたことでゆっくりと見る機会となり、職員自ら意識していることを声に出す姿が見られる	短時間パート職員など、トイレを利用しない職員には周知が徹底できていないため、タイムカード横にも掲示する	掲示をしたことで一人一人が振り返る場面が見られたため、引き続き継続して掲示を行っていく 【年間11回(前期5回 後期6回)】
	35.子ども・高齢者・障害者との「信任」の構築	106	【虐待を発生させない体制づくり】 虐待を発生させないことを目的にチェックリストの活用等、職員が自己の支援について振り返る機会の提供	不適切事例に触れたり（後期1回）、委員会と連携しながら人権擁護のセルフチェックリストを用いた振り返りを行ったりしていく 【年間2回（前期1回 後期1回）】	委員会の中で食事の場面における人権擁護について考える体験型研修の実施（7・24） 会議録にて不適切事例の共有	100%	人権擁護のセルフチェックリストは活用していないが、委員会と連携して実態に沿った研修が実施できている	チェックリストの内容に変化がなく、振り返りの効果が薄れているため、引き続き委員会と連携し、より効果的な機会を設けていく	委員会と連携し、人権擁護について考える研修を実施する 【年1回（前期1回 後期0回）】
	36.保護者との「信頼」の構築	118	【取組みの発信】 信頼を築くことを目的に、口頭からの高齢者・障害者・保護者へ安全性を高めるための取り組み等の発信	年間の緊急時対応訓練の計画をコラムを通じて発信するとともに職員の研修参加等も掲示を通して保護者と共有していく 【年間1回（前期1回 後期0回）】	6月のコラムにて年間計画を発信 職員の研修参加時には、玄関に掲示しているホワイトボードにて研修内容を記載	100%	訓練時の様子を写真で掲示するとともに、研修についてもホワイトボードに記載する習慣がついているため、共有ができている	共有はできているが、より理解を深めるため研修内容については具体的に記載していく	コラムにて年間計画を発信するとともに、訓練時の様子を写真で掲示していく 【年間1回（前期1回 後期0回）】
小規模保育事業 夢の森サテライト型	34.職員・職員の家族との「信頼」の構築	99	【意欲ある職場環境】 定期的な個別面談や、会議等で職員に意見を求めるなど、意欲ある職場環境づくりの推進	職員面談を行うと共に、月1回のグループ会議や環境会議の中で意識的に語る場を増やしていく 【年2回（前期1回 後期1回）】	8月、2～3月に職員面談を実施 会議以外にも少人数での振り返りの中で、全員が話す場を持てるようにした	100%	少人数での振り返りを行うことで、口数の少ない職員も発言の機会ができた	引き続き面談や少人数での会議の場を繰り返すことで、職員のモチベーションや意欲を促すようにする	意見の飛び交う職場となるよう、引き続き会議や振り返りで発言の場を設けつつ、意見を引き出すようにしていく 【年間12回 前期6回 後期6回】
	35.子ども・子ども・高齢者・障害者との「信任」の構築	104	【自己決定と選択の尊重】 子どもや高齢者・障害者にとって選択できる環境や選択肢が提示されるなど、「自己決定」が尊重される仕組みや環境づくりの実践及び検討・報告	環境会議を行い子どもの姿から環境を設定していく 【年11回（前期5回後期6回）】	5/23,6/23,7/23,8/26,9/25,10/1,11/26,12/16,1/26,2/20,3/23の11回、環境会議を実施した	100%	計画に沿って実施することができ、変更した際にはそのねらいや意図をコメント付きの写真や会議録で周知することで、非常勤職員からもフィードバックがあった	共有していてもより理解を深められるように、非常勤職員からも積極的に意見をもらえるようにする	環境会議に非常勤職員も参画してもらい、職員と共にエリアに対する理解を深め、子どもたちの遊びの保証をする 【年間6回 前期3回 後期3回】
	38.地域の学校との「信頼」の構築	134	【保育・介護・障害福祉サービス内容の研究と実践】 上記の関わり等連携し、保育・介護・障害福祉サービスの内容を深く研究し専門性を高める	法人内研修や特別研修に参加した際には、振り返りの時間に他職員にも報告して知識の共有を図る 【年10回（前期2回後期7回）】	会議にて、5/8,6/3,8/26の3回、会議録にて、9/22,9/30,10/22,10/31,11/8,11/18,11/25の7回報告ができていた	100%	会議、会議録も用いることで、時期を逃さず伝えたいことの周知を図ることができていた	会議まで待たずとも周知できるので、この方法を続けていき、補足等あれば会議で議題としていく	今後も継続して取り組み、個人の学びを施設の学びとして共有できるようにしていく 【年間10回 前期3回 後期7回】
小規模保育事業 多彩の森サテライト型	35.子ども・高齢者・障害者との「信任」の構築	106	【虐待を発生させない体制づくり】 虐待を発生させないことを目的にチェックリストの活用等、職員が自己の支援について振り返る機会の提供	不適切事例に触れたり（後期1回）、委員会と連携しながら人権擁護のセルフチェックリストを用いた振り返りを行ったりしていく 【年間2回（前期1回 後期1回）】	委員会の中で食事の場面における人権擁護について考える体験型研修の実施（7・24） 会議録にて不適切事例の共有	100%	人権擁護のセルフチェックリストは活用していないが、委員会と連携して実態に沿った研修が実施できている	チェックリストの内容に変化がなく、振り返りの効果が薄れているため、引き続き委員会と連携し、より効果的な機会を設けていく	委員会と連携し、人権擁護について考える研修を実施する 【年間1回（前期1回 後期0回）】
	36.保護者との「信頼」の構築	118	【取組みの発信】 信頼を築くことを目的に、口頭からの高齢者・障害者・保護者へ安全性を高めるための取り組み等の発信	年間の緊急時対応訓練の計画をコラムを通じて発信するとともに職員の研修参加等も掲示を通して保護者と共有していく 【年間1回（前期1回 後期0回）】	6月のコラムにて年間計画を発信 職員の研修参加時には、玄関に掲示しているホワイトボードにて研修内容を記載	100%	訓練時の様子を写真で掲示するとともに、研修についてもホワイトボードに記載する習慣がついているため、共有ができている	共有はできているが、より理解を深めるため研修内容については具体的に記載していく	コラムにて年間計画を発信するとともに、訓練時の様子を写真で掲示していく 【年間1回（前期1回 後期0回）】
	37.地域との「信頼」の構築	128	【環境問題への配慮】 地域の環境問題に対する取り組みの実践	地域の公園清掃を行う 【年間6回（前期3回 後期3回）】	4/7、6/17、9/10、10/6、11/28、1/15に実施	100%	7月から9月は暑さが厳しく、実施が難しい 職員で役割分担を行ったことで個々の意識が高まっている	時期によっては一度では綺麗にならないため、回数の検討が必要	植物が成長する時期（春・秋）を中心に実施していく 【年間6回（前期3回 後期3回）】

令和7年度事業報告書

施設	経営目標	№	各会議体・委員会・担当者の役割業務（重点目標）	計画(P) ※具体的な内容と回数【年間〇回(前期〇回 後期〇回)】	取組み(D)	評価・要因分析(C)		改善(A)	次期計画 ※具体的な内容と回数 【年間〇回(前期〇回 後期〇回)】
						年間の計画達成度	要因分析と評価		
小規模保育事業	34.職員・職員の家族との「信頼」の構築	34	〔経営理念の周知徹底〕 経営理念の周知徹底を図るために、様々な機会を捉えた経営理念の発信（説明）	職員が受けた特別研修や委員会の内容などをパート職員にもその都度伝え、周知するとともに、学べる環境を作る 【年間2回（前期1回 後期1回）】	・職員が委員会で学んだ事を書類でまとめ、園内に掲示（4月） ・5月6月に本園と合同で、人権についての研修を行う	100%	園内に掲示はしているが、全職員が理解し、現場で対応できているのがまで、確認ができていない。	今度は、掲示するだけでなく、職員が理解し、現場で対応できているのがまで確認できる場を設け、定期的に意見交換ができるようにする	早出・遅出職員が集まっての研修が難しいので、早めに伝えることで、できるだけたくさんの職員が研修に参加できるようにする
	35.子ども・子ども・高齢者・障害者との「信任」の構築	110	〔発生時の訓練〕 応急処置（あかいかいほちょうれんこう）、災害時等の避難、感染症対応などの訓練の実施	マニュアルの検証を行い、様々な状況を想定した訓練を実施する（パート職員も含めて災害時の訓練や会議を行う） 【年間3回（前期1回 後期2回）】	・毎月の訓練の中で、様々な時間を想定した訓練を行う事ができている（6月に大規模災害を想定したロールプレイング訓練を実施）	100%	・訓練後、その都度職員間で改善しないといけない事を話し合うことができており、災害への意識をしっかりと持っているように感じているが、時間によっては、まだ訓練に参加できていない職員が数名いる	全職員が訓練に参加し、どの時間帯でも速やかに対応できるようにする（誰かがやってくれているという考えはなくせるようにする）	訓練に参加できなくても、訓練を行った日の振り返り内容をしっかりと伝えられるようにする
	38.地域の学校との「信頼」の構築—B43:J43	38	〔学校との相互理解〕 学校行事への参加や、園（施設）行事・自己評価事業への招待等、「誰と顔の見える関係（世間話ができる関係）づくり」に努め、相互理解を図る	こども園と連携を図り、必要に応じて行事等に参加していく 【年間1回（前期0回 後期1回）】	・9月か10月のふれあいの中で、保護者を交えた交流会を行い、保護者の方にも本園を知ってもらう機会を設ける	100%	・昨年度は保護者を交えた本園との交流会が行えておらず、年度末に保護者の方のみ、本園の見学に来ていただいていたので、今年度は、保護者の方にも知ってもらうために、本園と話し合い、実施できるよう、計画を立てている	話し合いだけでは終わらず、必ず実施できるようにする（早めに保護者の方に配信をし、できるだけ多くの保護者の方に参加してもらえるようにする）	本園との連携会議を月一回は行えるよう、本園の職員と連携を図る
丘陵台児童館	34.職員・職員の家族との「信頼」の構築	99	〔思惑ある職場環境〕 定期的な個別面接や、会議等で職員に意見を求めるなど、思惑ある職場環境づくりの推進	定期的な職員会議やミーティングを開催し、職員が日頃から意識して発言したり、伝えることができる機会をつくる 【年間9回（前期3回 後期6回）】	前期4・21.5、2.6.6/23（3/3回）後期9・1・10・8.11・11.2・3.3・9/5・6回に実施	88%	他会議体等との調整により実施ができない時があったが、書面を確認することで周知を図った	非常勤職員の方にも参加してもらうように協力依頼しつつ、定期的な開催を行えるよう調整をする	書面での確認や日々のミーティング等で周知できる機会をもち、職員会議をもつ（前期5回、後期5回）
	37.地域との「信頼」の構築	130	〔地域との連携〕 地域における社会問題や課題の課題の解決に向け、民生・児童委員や自治会、地域団体等との定期的な連携及び具体的な取り組みの実践	民生委員や地域団体と連携し、住民が主体的に取り組むことができる内容を一緒に考え、実施する 【年間3回（前期2回 後期1回）】	前期6・21.後期11・30.12・21.1・18.2・15.3・15に開催	100%	前期は地域の方と日程調整が合わず、実施できなかったが、後期は予定以上に実施することができた	前期は、地域の方が日程が難しいことがあるので、後期に可能な範囲で予定を計画する	地域の方が無理なく開催できるように支援をしていく（前期3回、後期3回）
	37.地域との「信頼」の構築	132	〔地域活性化の取り組み〕 地域行事（まちづくり活動なども含め）への参加や共同行事の開催の企画など、地域活性化を目的とした活動の実践	継続的に行事に参加していく 【年間1回（前期0回 後期1回）】	10/11に開催	100%	地域の方と事前に打ち合わせをしたらうで、無事開催することができた	資機材の搬入搬出等事前準備、当日の動きを再確認する必要がある	地域の方が主体となり、団体でなくても個の思いを大切にできるような地域のまつりとして継続開催を目指す（前期0回、後期1回）
千島が丘児童館	34.職員・職員の家族との「信頼」の構築	98	〔信条の周知・徹底〕 「信条」の明確化や周知・徹底	発信の強化と、周知方法を検討する 【年間1回（前期0回 後期1回）】	12月実施	100%	強化月間として実施することで意識を高めることに意識して実施している	確認等をするすることで、より意識を高められるようにしていく	対話を通して確認する機会を設けていく 【年間1回（前期1回 後期0回）】
	35.子ども・子ども・高齢者・障害者との「信任」の構築	111	〔発生時の訓練〕 応急処置（あかいかいほちょうれんこう）、災害時等の避難、感染症対応などの訓練の実施	訓練の実施をする 【年間1回（前期1回 後期0回）】	11月実施	100%	地域の方と一緒に避難訓練等を実施していることで、災害への意識が高まっている	訓練内容を検討する中で注意点等を明確にしていく	地域の実態に合った内容の検討をしていく 【年間1回（前期0回 後期1回）】
	38.地域の学校との「信頼」の構築	135	〔連携による課題解決〕 学校との連携により、地域の課題を解決	学校の教育方針の知る機会を設ける 【年間1回（前期0回 後期1回）】	2月実施	100%	学校とやり取りをすることで、信頼の構築に努めている	地域の思い等を話し合いを通して理解していく	地域の良い点や問題点を話し合えるように工夫していく 【年間1回（前期0回 後期1回）】
丘陵台児童館	36.保護者との「信頼」の構築	118	〔取り組みの発信〕 信頼を築くことを目的に、日頃からの高齢者・障害者・保護者へ安全性を高めるための取り組み等の発信	継続的にHP・ブレインでの実施結果の発信を行う 【年間12回（前期6回 後期6回）】	HPにおいて行事報告を適宜実施（14回）	100%	実施前の行事の募集や行事報告をタイムリーに行うことによりHPやブレイン等から情報を取得できることにより健全育英事業への理解が深まった。	HPを通じて発信した行事報告や行事募集を館内にも掲示して幅広く知ってもらう仕組みを作っていく。	引き続き、タイムリーな行事実施の報告発信を行い幅広い利用者に向けて児童館事業を発信していく
	37.地域との「信頼」の構築	122	〔地域における福祉文化の醸成〕 育成と活動支援を目的とし、子ども・高齢者・障害者との直接的な関わりを意図した地域ボランティアの積極的な受け入れや、学習の機会づくり	地域ボランティアの受け入れを積極的に行う 【年間14回（前期7回 後期7回）】	絵本とお話の会（11回） 地域の方と遊ぼう（5月） なつまつり（7月） ハロウィンウォーク（10月末） ワークショップの受け入れ トライやるの受け入れ	100%	地域の方々の積極的な行事への支援の申し出があり地域の中で健全に児童を育てる環境づくりが自然と構築できる環境が少しずつある。	地域ボランティアの方々の活動を知ってもらう場を考えていく	地域ボランティアの方々の活動を地域住民の方々に知ってもらえるようにする。丘陵台児童館を拠点に東舞子コーナー・テオ親子コーナーへもつなげていく
	38.地域の学校との「信頼」の構築	135	〔連携による課題解決〕 学校との連携により、地域の課題を解決	学校運営協議会や地政会議に出席し情報交換を行い小学校や地域との連携を深め地域課題を模索する。 【年間6回（前期3回 後期3回）】	学校運営協議会3回 施設開放委員会（2回） ふれまち会議への出席2回 授業参観（3回）	100%	種々の会議に出席することで地域の方々とつながることができ、児童館コーナーの運営への理解が深まり支援を受けることができています。	取り組みをさらに発展させ児童館・2コーナーで共有して理解を深めていく交流の場に積極的に参加していく。	今後も会議や交流の場に積極的に出向き課題を見つけ各コーナーと共有して課題解決の方法を模索していく

令和7年度事業報告書

施設	経営目標	№	各会議体・委員会・担当者の役割業務（重点目標）	計画(P) ※具体的な内容と回数【年間〇回(前期〇回 後期〇回)】	取り組み(D)	評価・要因分析(C)		改善(A)	次期計画 ※具体的な内容と回数 【年間〇回(前期〇回 後期〇回)】
						年間の計画 達成度	要因分析と評価		
つば みの こ 育 園 め ば え の み	35.子ども・高齢者・障害者との「信任」の構築	105	〔虐待を発生させない体制づくり〕虐待を発生させないことを目的にチェックリストの活用等、職員が自己の支援について振り返る機会の提供	こどもの人権だけにとどまらず、園に関わる人すべてが尊重されるよう努め、園内研修を行う 【年間2回(前期1回 後期1回)】	(前期) 5/15、20、28 (後期) 11/20、12/5	100%	こども、保護者、職員が単独のものではなく、つながりあっていることを研修に盛り込み、職員自ら企画し、進めることで学びにつながった	園内研修は計画的に進めることができているので、振り返りにも力を入れ、フィードバックしていく方法を考えていく	継続的に園内研修を実施。共に振り返りを行う 【年間2回(前期1回 後期1回)】
	37.地域との「信頼」の構築	125	〔総合相談窓口〕地域における福祉の相談窓口の設置と機能の強化	ひろばの連絡会や研修会に参加し、機能の強化をはかっていく 【年間2回(前期1回 後期1回)】	5/23、12/19	100%	ひろばの役割に「重層的整備支援事業」が加わり、意識すること、方向性を具体的に共有することができた	ひろばを中心に取り組み内容を園全体に伝え、様々な職員を巻き込んで実施していく	連絡会で顔見知りになり、機能の強化を継続していく 【年間2回(前期1回 後期1回)】
	39.養成校・福祉を目指す学生との「信頼」の構築	130	〔実習に対する丁寧な対応〕福祉を目指す学生の「実習」に対し、明確な目標と適切な指導の下、将来の理想の姿を迎えるように援助し、「信頼」の関係を築く	積極的な実習生の受け入れと丁寧な関りを意識し、共に学べる場にする 【年間4回(前期2回 後期2回)】	9/1～9/11(2名) 12/7～12/17(2名)	100%	計画的に進めることができた。また、実習生の受け入れが担当保育士の学びにつながっている	実習の内容が充実してきているので、ボランティアなどにつなげていく	継続的に受け入れを行い、ボランティアにつなげていく 【年間4回(前期2回 後期2回)】
西宮北 こ の 園	34.職員・職員の家族との「信頼」の構築	99	〔意欲ある職場環境〕定期的な個別面談や、会議等で職員に意見を求めるなど、意欲ある職場環境づくりの推進	面談や毎月のケース会議などで意見や考えを出し合い、お互いに認め合いながら取り組みや計画に寄っていく 【年間2回(前期1回 後期1回)】	5/7～9 職員個別面談1 1/13～14/19 職員個別面談2 ケース会議等 月1～2回数	100%	職員との個別面談を通じたモチベーション向上、ケース会議等による園児毎の課題や方向性共有など着実に進められた。	職員のやるきを醸成するため、職員毎に年間のマイルストーン（里程碑）を主体的に設定することを考える。	個別面談やケース会議などで意見や考えを出し合い、お互いに認め合いながら計画・実行につなぐ。
	35.こども・子ども・高齢者・障害者との「信任」の構築	106	〔虐待を発生させない体制づくり〕虐待を発生させないことを目的にチェックリストの活用等、職員が自己の支援について振り返る機会の提供	チェックリストをして意識を高め、養護のバイブルブックの活用もしながら見直しや改善を行う 【年間3回(前期2回 後期1回)】	5/26.7/24.1/5 虐待防止研修	100%	7/24は他園と連携し、体験型研修を行うなど、計画どおり進められた。	1/5の研修は職員から提案を募り、虐待防止に係る研修テーマを設定した。今後も継続していく。	チェックリストを活用して職員の意識や気づきを高め、保育の見直しや改善を行う。
	38.地域の学校との「信頼」の構築	133	〔学校との相互理解〕学校行事への参加や、例(施設)行事・自己評価事業への招待等、「顔と顔の見える関係(土間望ができる関係)づくり」に努め、相互理解を図る	「つながり」事業を通して、情報を得ると共に小学校との交流事業(担当者会)に参加する 【年間3回(前期2回 後期1回)】	4/30 つながり管理者会議 5/20 つながり担当者会 7/7 つながり担当者会2 7/18・1/20 研修 11/17 小学校訪問1 12/2 小学校訪問2 2/5 幼稚園公開(幼保小交流) 2/24 つながり担当者会3	100%	概ね計画どおり取り組み、学校・園との相互理解が進んだ。	小学校教員との顔の見える関係づくりが大切であることから、交流事業や連携事業に積極的に参加していく。	「つながり」事業を通して、情報を得るとともに小学校との交流(担当者会等)に参加する。
幼 保 連 携 型 認定こども園	35.こども・子ども・高齢者・障害者との「信任」の構築	111	〔発生の訓練〕緊急処置(あかいかいほちゅうれんこう)、災害時等の避難、感染症対応などの訓練の実施	年間を通じて、計画的に園内研修や訓練を予定していく 【年間6回(前期3回 後期3回)】	5/13 大雨想定避難 7/11 立ち退き避難 8/14 ブラインド型 ロールプレイ訓練 11/5 兵庫県一斉訓練 1/16 警察合同訓練 3/11 津波想定訓練	100%	委員会の計画と園内避難訓練など、定期的に実施できた。訓練ごとに意図する部分は異なり、幅広く経験できた	定期的に避難訓練の実施報告を保護者へ共有していることが保護者理解にもつながっているため、継続的に取り組んでいく	継続的に避難訓練報告を実施 【年間3回(前期1回 後期2回)】
	37.地域との「信頼」の構築	123	〔地域における福祉文化の醸成〕育成と活動支援を目的とし、子ども・高齢者・障害者との直接的な関わりを意図した地域ボランティアの積極的な受け入れや、学習の機会づくり	地域の共生社会の取り組みに、積極的に参加していく 【年間6回(前期4回 後期2回)】	5/22 つばがり会議 8/1 サマーボランティアの受け入れ(7日間) 8/14 中高生のアトリエ体験 11/7 ほっとかへん交流会 12/1 地域ワークショップ会議 2/12 ほっとかへんネット役員会	100%	中高生のボランティア受け入れは、将来の人材確保だけでなく、地域の中で子どもたちを見守る1つの事業所としての役割があることがわかった	中高生との関わりの中で、福祉に関心を高めてもらう機会と内容を探る	受け入れ時期を考慮して計画する 【年間6回(前期3回 後期3回)】
	38.地域の学校との「信頼」の構築	133	〔学校との相互理解〕学校行事への参加や、例(施設)行事・自己評価事業への招待等、「顔と顔の見える関係(土間望ができる関係)づくり」に努め、相互理解を図る	地域の学校運動会や幼保小連携事業、青愛協の会議に参加する 【年間4回(前期2回 後期2回)】	5/22 つばがり会議 6/20 青愛協会会議 6/22 高須フェス会議 7/17 青愛協 高須ブロック 9/12 たかす展招待 12/15 たかす展招待 3/26 つどいまんなか会議	100%	顔見知りの関係性からともに地域課題についての意見を求められるようになっている	継続的に参加できる場と園に出向いてもらえる場が必要であることが分かった	園に来てもらえる場も定期的に案内する 【年間3回(前期1回 後期2回)】

令和7年度事業報告書

施設	経営目標	施設	各会議体・委員会・担当者の役割業務（重点目標）	計画(P) ※具体的な内容と回数【年間〇回(前期〇回 後期〇回)】	取組み(D)	評価・要因分析(C)		改善(A)	次期計画 ※具体的な内容と回数 【年間〇回(前期〇回 後期〇回)】
						年間の計画達成度	要因分析と評価		
森のこどもたち	34.職員・職員の家族との「信頼」の構築	102	〔健全な職場環境の確立〕ワークライフバランス、セクハラ、パワハラの無い環境づくりの推進をしている組織であることの発信及び理解の促進	子どもの人権だけでなく、人人同士も尊重し合えるよう園内研修を行っていく 【年間2回（前期1回 後期1回）】	5/14～22 11/26～28	100%	日々の事例をもとに付箋を活用しながら、様々な職員の声をひろい、人権について考える機会となった	園内研修の時だけでなく、短いスパンでも自身を振り返ることができる仕組みを作る	人権のチェックリストを前半に取り入れ、計画にいかれていく 【年間2回（前期1回 後期1回）】
	35.こども・高齢者・障害者との「信任」の構築	104	〔自己決定と選択の尊重〕子どもや高齢者・障害者にとって選択できる環境や選択肢が提示されるなど、「自己決定」が尊重される仕組みづくりや環境づくりの実践及び検証・報告	日々の保育を動画などを用いて、具体的に全職員に伝えていく 【年間2回（前期1回 後期1回）】	6/23～25 12/16～18	100%	園内研修を行い、保育内容の振り返ることができた	一つの事例をもとに職員間で考える時間を取り入れていく	動画を有効的に活用し、より具体的に研修を進めていく 【年間2回（前期1回 後期1回）】
	37.地域との「信頼」の構築	121	〔施設の地域への開放と活用〕「地域共生社会の実現」につながるコミュニティ強化を目的に施設開放・活用・イベントの開催等の地域に開かれた取り組みの積極的な実践	フェスタや展示会など、地域に向けて発信していく 【年間1回（前期0回 後期1回）】	12/14 展示会 3/14 フェスタ	100%	外部に向けた研修会の開催や、年度末のフェスタを通して、保育内容を発信することができた	保育で大事にしていることをより具体的に発信できるよう、展示の仕方を考えていく	内容を充実させ、継続していく 【年間2回 前期0回 後期2回（研修会、展示会）】
ノルもの	35.こども・子ども・高齢者・障害者との「信任」の構築	111	〔発生の訓練〕応急処置（あかいかいほちょうれんこう）、災害時等の避難、感染症対応などの訓練の実施	月1回の避難防犯の実践を想定した訓練を行い、職員の役割を明確にしていく 【年12回（前期6回 後期6回）】	5/13 早出 地震→火災 避難 防犯訓練 6/13 大雨・洪水 7/11 避難 大雨・洪水 8/18 地震→火災 8/25 早出 防犯 10/17 早出 地震津波 11/19 早出 防犯 12/19 園外 防犯 1/27 避難 防犯 2/20 防犯 3/11 地震津波	100%	BCPの役割を伝え、それを実践できるように職員に伝えだ上で行う事ができた	頭では役割はわかっているが、実際に動くとき無駄な動きが多く、混乱も多かった。	役割を明確化し、持ち出しの物や必要な物を整理し、見やすくして継続していく 【年12回 前期6回 後期6回】
	37.地域との「信頼」の構築	121	〔施設の地域への開放と活用〕「地域共生社会の実現」につながる「コミュニティ強化を目的に施設開放・活用・イベントの開催等の地域に開かれた取り組みの積極的な実践	フェスタや展示会など、地域に向けて発信していく 【年間1回（前期0回 後期1回）】	12/14 展示会 3/7 フェスタ	100%	後半に地域の方や外部の方に保育を発信する機会となった	地域の方を呼び人数をかなり絞って呼んだので、少人数の中じっくり説明しつつ案内する事はできたが、まだお呼びできる余裕はあった	呼び範囲を広げ、地域の幅広い方にお声がけし、地域向けの内容も盛り込む 【年1回 前期0回 後期1回（展示会）】
	37.地域との「信頼」の構築	127	〔地域への見える化・見せる化〕地域に対して法人・施設情報の提供やサービス内容の説明、開かれた（情報開示・提供・公表）仕組みづくりの推進等、地域とのコミュニケーションの強化	地域へ伝えたいことを明確にし、見える化を充実させていく 【年3回（前期0回 後期3回）】	12/14 展示会 1月10～3/1 外向け展示 3/7 フェスタ	100%	12/14の展示会の掲示物を使って地域に対しての見える化を行い、その展示物を使用し、保護者と、地域向けにに対しての展示会を行う事ができた	後半に12月の展示物を使って見える化を行う事はできたが、年間を通しては少なかった	前期にもポータルフォリオなど、地域向けの掲示を増やし、園を知ってもらう 【年5回 前期2回 後期3回（展示会を含む）】

令和7年度事業報告書

施設	経営目標	施設	各会議体・委員会・担当者の役割業務（重点目標）	計画(P) ※具体的な内容と回数【年間〇回(前期〇回 後期〇回)】	取り組み(D)	評価・要因分析(C)		改善(A)	次期計画 ※具体的な内容と回数 【年間〇回(前期〇回 後期〇回)】
						年間の計画達成度	要因分析と評価		
どんくりの里	37.地域との「信頼」の構築	115	〔施設の地域への開放と活用〕 「地域共生社会の実現」につながるコミュニティ強化を目的に施設開放・活用・イベントの開催等の地域に関わられた取り組みの積極的な実践	ご家族等に満足度やサービス内容についての意向を確認できる用紙を作成する 【年間1回(前期0回 後期1回)】	家族様が気軽に記入できる用紙の作成を行った	100%	用紙はできたが配布まで至らず家族様のサービス内容の意向が確認できていない	アンケート用紙を配布しサービス内容についての家族様の意向を集計することで、サービス内容の改善を行う	アンケート用紙を家族様に年1回配布し、集計結果よりサービス内容の見直しを行う 【年間1回(前期〇回 後期1回)】
	37.地域との「信頼」の構築	121	〔施設の地域への開放と活用〕 「地域共生社会の実現」につながるコミュニティ強化を目的に施設開放・活用・イベントの開催等の地域に関わられた取り組みの積極的な実践	南あわじ市の元気高齢者等活躍推進事業による「おもしろボランティア」の受け入れを積極的に行い、地域住民との連携を強化する 【年間12回(前期6回 後期6回)】	おもしろボランティアの活動内容を見直すことで登録者が4名となり、毎月12回施設で活動してくださるようになった	100%	おもしろボランティアの施設での活動回数が増えたことで、施設の行事や取り組みについて協力してくださるようになった	おもしろボランティアの活動が継続できるよう活動内容を定期的に見直す	継続しておもしろボランティアの受け入れを積極的に行う 【年間12回(前期6回 後期6回)】
	38.地域の学校との「信頼」の構築	133	〔学校との相互理解〕 学校行事への参加や、画（施設）行事・自己紹介行事等への招待等、笑顔と顔の見える関係（主聞話ができる関係）づくりにつなぐ、相互理解を図る	在宅介護支援センターの活動として認知症サポーター養成講座の開催や出前講座を実施する 【年間12回(前期6回 後期6回)】	認知症サポーター養成講座を12回開催。	100%	市内の中学校で認知症サポーター養成講座を開催し、生徒と直接会話することができ、福祉の推進ができた	市内の多くの学校に認知症サポーター養成講座について周知してもらえるような活動を行う	認知症の方が安心して地域で生活できるよう、認知症サポーター養成講座の開催を市内の学校でできるよう推進する 【年間12回(前期6回 後期6回)】
ういず	35.子ども・高齢者・障害者との「信頼」の構築	113	〔災害対策〕 非常災害に対する個別の計画を整備し、それに基づく実効性ある訓練の実施	B C Pの見直しを行う 【年間1回(前期0回 後期1回)】	12/8,10にB C Pの机上研修を行った	100%	机上研修後に出た意見をもとに、B C Pの見直し、更新を行うことができた	明確化した避難経路をもとに、訓練を行う	B C Pを用いた訓練を行う 【年6回(前期3回 後期3回)】
	37.地域との「信頼」の構築	130	〔地域との連携〕 地域における社会問題や地域の課題等の解決に向け、民生・児童委員や自治会、地域団体等との定期的な連携及び具体的な取り組みの実践	地域ケア会議で、地域の課題や問題について協議を行う 【年間12回(前期6回 後期6回)】	前期の開催がなく、後期開催の地域ケア会議に参加した(9月から月1回)	50%	市内の実際にあったケースをもとに、多職種が集まり、事例検討することができた	サービスに繋がらない困難事例に対して、専門職と行政、地域と情報共有して、支援方法を検討していく	継続して地域ケア会議に参加して、地域の課題や問題について協議を行う 【年12回(前期6回 後期6回)】
	40.行政・関係機関との「信頼」の構築	140	〔情報の収集〕 行政・関係機関また、経済人等との様々な交流の機会を通じて、地域福祉計画を始めとする各種福祉計画の策定への参画及び福祉事業の経営等に関する情報の収集	介護プロジェクト会議で最新の情報を収集する 【年間12回(前期6回 後期6回)】	月1回開催の介護プロジェクト会議に参加した	100%	介護プロジェクト会議や地域ケア会議で国や市の施策または動向を情報共有することができた	市が勤めている南あわじ市介護予防包括的ケアマネジメントの内容を理解する	継続して地域ケア会議や介護プロジェクト会議で情報共有を図る 【年間12回(前期6回 後期6回)】
多夢アイ	35.子ども・高齢者・障害者との「信頼」の構築	107	〔凶悪事例への取り組み〕 障害児の受け入れや課題の多い家族のいる利用者の受け入れ等の凶悪事例への取り組み	自施設の支援内容を職員間で共通認識を持つ 【年間2回(前期1回 後期1回)】	職員会議の開催(6月16日、12月25日)	100%	幼老障共生について交流時の関わり、外部へのPRなどについて共通認識を持てた	ケアマネへの月末報告の際に空き状況の記載や幼老共生のPR	継続して外部への説明方法やPR方法など、利用者確保にもつなげていく 【年間2回(前期1回 後期1回)】
	36.保護者との「信頼」の構築	115	〔保護者等のニーズの把握・理解〕 保護者や家族の声を聞き満足度を把握し、職員参加の下、保育・介護・障害福祉サービス改善の取り組みを推進	日常の関わりからご利用者様、ご家族様のニーズをキャッチし職員間で共有を図る 【年間6回(前期3回 後期3回)】	朝礼時、ケース会議等で随時、実施	100%	利用者について共通認識を持つ	確認漏れをなくすよう努める	継続して利用者の状況把握や共通認識をもって質の向上に努める 【年間6回(前期3回 後期3回)】
	36.保護者との「信頼」の構築	116	〔保護者、地域への説明〕 法人が提供する保育・介護・障害福祉サービス内容について、保護者や地域住民等に対して説明する機会を設ける	開催している体験教室等を活用 【年間2回(前期0回 後期2回)】	運営推進会議の実施(10月23、3月26日)	100%	地域への決算、事業報告をする事で事業への理解促進を図る	地域代表者の高齢化	継続して地域との交流時に自施設への提言なども含め情報共有を地域と実施していく 【年間2回(前期〇回 後期2回)】

令和7年度事業報告書

施設	経営目標	№	各会議体・委員会・担当者の役割業務（重点目標）	計画(P) ＊具体的な内容と回数【年間〇回(前期〇回 後期〇回)】	取組み(D)	評価・要因分析(C)		改善(A)	次期計画 ＊具体的な内容と回数 【年間〇回(前期〇回 後期〇回)】
						年間の計画達成度	要因分析と評価		
小 花 里 の 環 境 特 養	35.子ども・子ども・高齢者・障害者との「信頼」の構築	106	〔虐待を発生させない体制づくり〕 虐待を発生させないことを目的に、チェックリストの活用等、職員が自己の「支援」について振り返る機会の提供	チェックリストを活用し振り返りを行い、不適切なケアについて見直し、改善すべき点について職員へ周知・啓発する 【年間2回(前期1回 後期1回)】	介護理念研修において虐待防止及び身体拘束適正化に関する研修を実施（5・16） 虐待防止及び身体拘束適正化に関する研修を実施（3・4）	100%	チェックリスト活用による自身の振り返りができていないが、研修を通してスピーチロックや不適切ケア等の啓発や、アングーマネジメントを学んだ	利用者の尊厳を守り、研修での学びを、日頃のケアにおいの実試できているかを引き続き評価していく	チェックリストリストを活用し振り返りを行い、不適切なケアについて見直し、改善すべき点について職員へ周知・啓発する 【年間2回(前期1回 後期1回)】
	36.保護者との「信頼」の構築	115	〔保護者等のニーズの把握・理解〕 保護者や家族の声を聞き満足度を把握し、職員参加の下、保育・介護・障害福祉サービス改善の取り組みを推進	ご家族等向けに満足度やサービス内容についてのアンケートを実施し、サービス内容の見直しを図る 【年間1回(前期0回 後期1回)】	サービス内容(生活環境、職員の対応、面会、行事、広報誌内容等)に関するアンケートを3月に実施	100%	回答に負担の少ない様式で作成し、特養利用者ご家族にアンケート用紙を配布し、約8割の回収率で回答にご協力いただくことができた	アンケート結果の集計をご家族へフィードバックするとともに、いただいた意見を参考にし、よりよいサービス提供に向けて改善する	ご家族等向けに満足度やサービス内容についてのアンケートを実施し、サービス内容の見直しを図る 【年間1回(前期〇回 後期1回)】
	37.地域との「信頼」の構築	122	〔地域における福祉文化の醸成〕 育成と活動支援を目的とし、子ども・高齢者・障害者との直接的な関わりを意図した地域ボランティアの積極的な受け入れや、学習の機会づくり	「KOBESHINIA元気ポイント制度」を活用したボランティアの受入れを行い、活動者と相談しつつ活動内容を充実させる 【年間2回(前期1回 後期1回)】	今年度、KOBESHINIA元気ポイントを活用したボランティアの受け入れの実績なし 音楽会実施にあたり演奏ボランティアに協力いただく(6・2)	0%	KOBESHINIAボランティアの活動実績なし	以前に開催された交流会において連絡先をお聞きした参加者に対して、活動内容の案内や意向をお聞きする	「KOBESHINIA元気ポイント制度」を活用したボランティアの受入れを行い、活動者と相談 【年間2回(前期1回 後期1回)】
L 生 活 介 護 花 の 多 世 帯	34.職員・職員の家族との「信頼」の構築	100	〔健全な職場環境の確立〕 ワークライフバランスを意識した職場環境づくりに努めると共に、セクハラ、パワハラのない職場づくりの推進	ストレスチェックの実施及び、様々なハラスメントへの共有を図る（4月・10月・2月に実施） 【年間3回(前期1回 後期2回)】	4月、面談実施 8月、面談実施 10月、ストレスチェック用紙の活用	66%	面談やストレスチェックを行ったが、まだまだ職員の話やストレスの解決に向けては技術や配慮が必要であると感じた	ストレスチェックについて、改めて実施法や知識を身につける必要がある	引き続き、ハラスメントの共有やストレスチェックなどを行うと共に、それに関連した研修への参加
	35.子ども・子ども・高齢者・障害者との「信頼」の構築	102	〔受容的環境の確立〕 人的・物的両面において、受容的環境を確立し、子ども・高齢者・障害者が信頼感と安心感を抱って生活出来ているかの検討・改善と報告	年間2回の保護者面談の実施及び、アンケート配布によりリリースや需要環境の検証を行う（9月・3月） 【年間2回(前期1回 後期1回)】	・9月、1度目のアンケート実施 ・3月、2度目のアンケート実施	100%	半年に1度のアンケート及び、ご意見については習慣化できている	アンケートの内容については、その都度変更することで様々な検証が行えるのではないかと	アンケート内容の変更（共生活動という日々の狙いの評価も含めて）
	37.地域との「信頼」の構築	121	〔施設の地域への開放と活用〕 「地域共生社会の実現」につながるコミュニティ強化を目的に施設開放・活用・イベントの開催等の地域に開かれた取組みの積極的な実践	定期的に行っている子育て支援、体操教室に加え、年1回以上、地域と関わるきっかけとなるイベント（マーケット）を開催する 【年間2回(前期1回 後期1回)】	Link treeにて、クリスマスマーケットイベントを主催（神戸ふれあい工房商品を用いて、福祉の理解を深める活動）	100%	当日を迎えるまで、様々な告知を実施、福祉に興味ある方や、関心を持たれる方も含め、来場が194名あった	当日、参加できる利用者が少数のため、商品との関りはあったが利用者地域の方との関りの場が少なかった	利用者の参画（当法人、他法人含め）新たな地域開放イベントの開催（学習支援）

令和7年度事業報告書

委員会	経営目標	№	各会議体・委員会・担当者の役割業務（重点目標）	計画(P) ＊具体的な内容と回数【年間○回（前期○回 後期○回）】	取り組み（D）	評価・分析(C)		改善(A)	次期計画
						年間の計画 達成度	要因分析と評価		
研 修 委 員 会	1.専門知識・技術を高める 2.創造力を培う 3.論理的思考を培う 4.継続性を培う 5.コミュニケーションスキルを培う 6.リーダーシップを培う 7.公共心を培う 8.ルール・規範意識を高める 9.他者理解力を高める 10.忍耐力を培う 11.意欲を高める 12.アイデンティティを築く	3	〔学ぶ内容の明確化〕 研修課程（階層別研修メニュー・非正規職員含む）の定期的な見直し	フィードバック研修及びハワーアップ研修（アドバイザー含む）における階層別研修テーマを検討する 【年間1回（前期1回 後期0回）】	6/9に委員会内で実施	100%	対象者等を確認しながら、研修担当者や内容を検討できた	それぞれの成長の視点にあった内容を検討していく	委員会内で、テーマや内容について話し合う場を設けていく 【年間1回（前期1回 後期0回）】
		5	〔非正規職員研修システムの構築〕 研修体系の確立と採用時マニュアルの作成・改善	採用時に必ず伝えるべき内容を統一しておく 定期的にマニュアルを確認する 【年間3回（前期0回 後期3回）】	1月に内容に確認にて実施	35%	マニュアルの確認と共に、各施設への発信をする必要があった	会議等を活用し、マニュアルについて振り返りと確認をしている	会議等で、マニュアルについて伝える機会を設ける 【年間3回（前期1回 後期1回）】
		7	〔特別研修の企画・運営〕 法人特別研修の企画・運営	専門知識のある講師を招いて特別研修を開催する 【年間5回（前期3回 後期2回）】	4/28,5/12,9/1,9/22,10/7,11/22 計6回実施	100%	実施に際し、法人職員が成長すべき、学ぶべきポイントを考えながらテーマ等の計画ができた	実施の回数などを検討し、意味のある研修会にしている	実施時間等を検討しながら継続的に実施していく 【年間4回（前期2回 後期2回）】
人 財 確 保 ・ 定 着 委 員 会	13.良質な人材を確保する	16	〔効果的な情報発信〕 HPでの新しい効果的な情報の発信（随時、常時更新）	法人公式SNSの定期的な運用を行う 【年間36回(前期28回 後期8回)】	5/16 5/23 7/24 7/29 7/29 8/4 11/5 11/26 12/20 2/12 2/11 2 3/19 Instagramにて12回配信	33%	担当者が明確に決まっておらずに更新の回数が確保できなかった。	SNS運用の担当者を明確に設定して、定期的な更新を行う	法人公式SNSの定期的な運用を行う 【年間18回(前期9回 後期9回)】
	14.上司、部下、スタッフ 同士の関わりの充実	21	〔健全な職場風土の確立〕 人材定着を目的とした、クラブ活動やレクリエーション等の企画・運営	定期的なレクリエーション活動の実施 【年間3回(前期0回 後期3回)】	9/23 バレーボール大会参加 10/14 11/25 バレー交流戦参加 11/24 法人対抗運動会参加	100%	毎年恒例になっている部分バレー大会と運動会を実施できたことに加えて、他法人とのバレー交流も行うことができた	レクリエーションの定期的な開催は継続して、新たな取り組みも検討していく。継続的な取り組みは内容の検討を行う	定期的なレクリエーション活動を実施する 【年間6回 前期3回 後期3回】
	14.上司、部下、スタッフ 同士の関わりの充実			サポーティング制度にて、相談できる機会を設ける 【年間1人4回 前期1人2回 後期1人2回】	各担当者年間通して4回実施	100%	相談開始が6・7月頃からになってしまったので、全体的にサポート体制が遅れてしまった	早期にサポーターの決定を行いGW明けからのサポーティング制度を実施できるようにしていく	サポーティング制度にて、相談できる機会を設ける 【新任職員1人に対して、年間4回（前期2回 後期2回）】
質 の 向 上 委 員 会	21.「自分らしく主体として 生きること」を目指す保 育・介護・障害福祉サー ビスの提供	57	〔保育・介護・障害福祉サービス内容の研究と実践〕 それぞれの保育・介護・障害福祉サービスの内容を深く研究し専門性を高め、個を尊重した丁寧な保育・介護・障害福祉サービスの提供	法人内研修後は参画者が自施設で園内研修を開催して施設の質向上に努めていく 【年間1回（前期0回 後期1回）】	9月17日（水）、30日（火）に法人内研修“自然との出会い、デジタルの可能性”を実施した為、10月中に各園や地域にて園内研修を実施	100%	各施設の実情にあわせた園内研修の企画運営が行えた。委員会にて共有の機会をもつことで違った視点での気づきや新たな可能性も見えたが、日常の保育に落とし込むまでに至らない	研修開催後は日常の保育にどのように落とし込んでいくのかまで考える壁をなげかけていく	次年度のねらいに沿って研修を再考し計画する 【年間1回（前期0回 後期1回）】
	21.「自分らしく主体として 生きること」を目指す保 育・介護・障害福祉サー ビスの提供	55	〔保育・介護・障害福祉サービスに関する情報提供〕 保育・介護・障害福祉サービスの内容や情報を子ども・高齢者・障害者に対し“みえる化”を図り、積極的な説明と発信	活動報告とその効果について委員会内で発信・共有する 【年間11回（前期6回 後期5回）】	前期6回（4/18、5/23、6/20、7/23、8/22、9/5）・後期4回（11/26、12/26、1/30、3/6）委員会内で活動報告とその効果について発信・共有を実施。また、10/21法人内研修にて「その人らしさの実現に向けた実践発表を実施	100%	委員会内で定例として活動報告を実践できた。また、毎月の報告を充実することで、法人内研修にて実践発表へと繋げることができ、法人内で他分野の職員とも共有する機会となった	毎月の委員会内での活動報告の継続と充実を目指すなかで、法人内外への発信の機会を作っていく	法人内外での共有の場を作る 【年間12回（前期6回・後期6回）】

令和7年度事業報告書

委員会	経営目標	№	各会議体・委員会・担当者の役割業務（重点目標）	計画(P) ＊具体的な内容と回数【年間○回（前期○回 後期○回）】	取り組み（D）	評価・分析(C)		改善(A)	次期計画
						年間の計画 達成度	要因分析と評価		
地域貢献委員会	連携によるニーズの把握とスキルの獲得	66	〔災害支援（DWAT）〕社会福祉法人連絡協議会や行政との連携のもと、災害時対応協定、福祉避難所の備えなど、地域住民の安全・安心な生活の確保に努めるなどのスキルの習得	災害福祉に関する研修に参加する 【年間1回(前期1回 後期0回)】	9/8に兵庫DWAT研修会に参加	100%	研修に参加した旨を委員会内で情報共有した	他委員が参加できるように情報を発信していく	未参加の委員がDWAT研修に参加できるように情報発信と、各事業所での調整を依頼する（年1回）
	地域課題（ニーズ）への対応	72	〔地域への発信〕 地域との様々な関わりを"みえる化"して積極的に発信し、私達の活動の理解を深めることを目的にHPの内容の定期的な更新と、人材確保採用ツール作成への参画	地域向け広報誌の作成 【年間4回(前期2回 後期2回)】	1月に創刊号を発信（1/4回）	25%	タイトルや表紙写真等が難航したが創刊号を発行することができた	委員が中心となって担当、編集するが、情報の集約だけでも時間がかり、そのあと修正が入るため、発行回数と内容の見直しをする必要がある	前期は予定や計画、後期は振り返りや次年度計画を集約する（前期1回、後期1回）
	施設主義から機能主義へ	75	〔地域ニーズの把握と対応〕 地域住民のニーズ把握とその対応、また、新たな福祉需要への対応住民と共に地域課題を解決するための機会の設定を法人内施設において実践できるようノウハウの確立	CSWPを作成し、情報の共有と知識の向上をはかる 【年間3回(前期1回 後期2回)】	各事業所よりデータを収集した	20%	事業所ごとに情報収集及び、データ入力を行ったが、入力状況にはばらつきがある	委員に入力を促すことと併せて、入力方法の共有や具体例等を伝え、特に初めての委員には、全担当者にも確認するように伝える	委員中心に入力をすすめる（前期1回、後期1回）
共生社会の創造委員会	幼老隣共生社会の再構築	77	〔幼老共生の研究〕 〔幼老隣共生〕の意義（子どもにとって・高齢者にとって・障害者にとって）を確立することを目的に、法人内研修の企画・運営とそれを説明する成果物の作成（報告含む）	実践を語り合う中で"互いにメリットがある"ということを軸に対話を深めていく 【年間5回（前期3回、後期2回）】	委員会の中で対話の方法を検討しながら実践してきた(5/22、7/14、9/24、11/25、3/23)	100%	グループに分かれて対話を行ったことでそれぞれに対話を深めることができた	少人数ずつの対話で思いを深めることができたが、最後に共有したところから全体を把握するととなると、それぞれの印象が薄まってしまう	それぞれのグループの中で出た話題を要約した議事録を作成し、全体把握に務める
	幼老隣共生社会の再構築	81	〔地域での福祉の推進〕 法人内各施設が、出前授業等の学校教育への協力、ボランティアの受入れ等、福祉マンパワーの養成や住民参加による取り組みを行うための情報提供などの支援	学生受け入れの機会を通して福祉について考え合う機会を設けるとともに、学校側にフィードバックしていく 【トライやる年間1回（前期1回、後期各施設にて随時）】	夢の森にて7/18実施 多夢の森にて8/1実施 各施設にてトライやるウィーク受け入れ後に実施	100%	夢の森、多夢の森で先行して実施、秋の受け入れの際には各施設で実施することができた	秋の受け入れでは各施設で学校側へのフィードバックまで実施することができたが、担当者の方量により、学生の学びが深まる場合とそうでない場合があった	こどもふくしだよりを渡すだけではなく、各施設で参加者同士が語り合う時間を設け、学びが深まるようにしていく
	福祉教育の推進	82	〔福祉に対する理解の促進〕 地域住民の福祉に対する理解を促進するために、法人内各施設が講習会、講演会、勉強会等の実施と情報提供	各施設から地域に向けての発信方法を探っていく 【年間1回（前期1回、後期各施設にて随時）】	松帆北、松帆南にて7/2実施 多夢の森自治会総会7/5実施 各施設にて、自治会やボランティア、民生委員や地域の高齢者、見学者などに向けて取り組みを発信を実施	100%	委員会開催の都度、担当者から呼びかけを行うことで各施設、何らかの形で外部に向けて発信することができた	各施設にて実施されていることを委員会で共有し、どのような発信方法があるのかを知り、引き出しを増やしていく必要性がある	どのような発信方法があるのかを学び合い、他施設の実施方法を参考に地域への発信を広げていく
リスクマネジメント委員会	28.予防（発生確率の低減）する	28	〔システム整備と改善・周知〕 保育・介護・障害福祉サービス提供に際しての安全性を確保することを目的として、実用的なマニュアルの策定と定期的な見直し及び法人内各施設に周知徹底	技術標準の添削研修を行い、保育・介護技術標準の理解を深め、保育・介護技術標準作成を行える職員を育成する 【年間12回（前期6回後期6回）】	各施設から出てきた技術標準を月1回遠藤様指導の下、添削や作成についての講義、会議を実施。また、法人内研修にて作成のコツや理解についての内容を実施。	100%	技術標準作成について理解が深まり、作成内容や出来栄も高度になっている一方で、法人内での取り組み状況や理解度に施設・担当者間で差が見られ、実践や運用にムラが生じている。	標準化した取り組みの共有体制や相互確認の仕組みづくりを進め、法人全体として一定水準で継続的に実践できる体制整備を行う。	先行メンバーの協力を仰ぎながらバトロールを各施設にて実施し、技術標準作成内容や運用方法の確認・助言を行う。（前期12回・後期12回）
	29.被害規模(ダメージ)を小さくする	29	〔BCM〕 保育・介護・障害福祉サービス提供を継続するための体制を整えることを目的に、事業継続計画（BCP）の策定と訓練及びその改善	ブラインド型ロールプレイ訓練を各施設で実施し、非常災害時に対するイメージをするとともに、災害に備えて物品の精査、システムの精査を行う。 【年間1回（前期1回 後期0回）】	8月の委員会開催日にて各施設にてシナリオブラインド型ロールプレイ訓練を実施した。	100%	各施設に沿った訓練を行うことができ、物品の精査や役割分担などを見直す機会となった。継続して取り組むことで最新の情勢と合わせていく必要がある。	南海トラフに対する警戒・注意を高め対策、備え、避難計画などの見直しを施設、地域単位で行う。	各施設、地域の実状に応じたシナリオの作成、ロールプレイ訓練を行う（前期1回）
	30.クライシスマネジメント 31.人格権侵害をなくす（人格の尊重） 32.個人情報の保護 33.経済的被害に備える	28	〔想定外をなくす〕ヒヤリハット、KYT等を通じ、事故・怪我・コンプライアンス違反などの"油断と気づき"の共有と法人内各施設への周知徹底	品質パトロール・実施パトロールの周知、理解を研修にて行い、各施設にてパトロールを実施していく 【年間12回（前期6回 後期6回）】	遠藤様指導の下、パトロールを月1回淡路・神戸・西ノ宮いずれかの拠点で実施。また、法人内研修意でパトロールについて講義する。	100%	パトロールについての理解や目的意識の浸透が十分ではなく、施設ごとに受け止め方や取り組みの姿勢に差が見られる。	パトロールの意義や確認ポイントを分かりやすく共有するとともに、実施後の振り返りや改善につなげる仕組みづくりを行う。	年間行事計画の中にパトロール日を設定し、先行メンバーの協力を仰ぎながらパトロールを各施設にて実施する。（前期12回・後期12回）

上記の事業報告書に加えて、補足すべき重要な事項はないので、定款第32条第1項第2号に定める附属明細書は作成していません。